

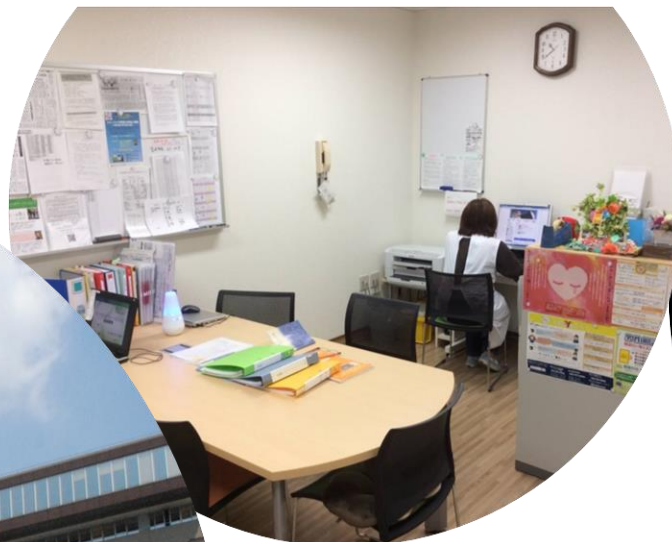
法務省視察

2020年2月3日(月) 13:30~15:30

性暴力救援センター日赤なごやなごみにおける

性暴力被害者の現状と支援体制について

性暴力救援センター日赤なごやなごみ
センター長 片岡 笑美子



開設式
2016年1月5日

**名古屋第二赤十字病院 内
性暴力救援センター日赤なごや なごみ**

医療・司法・行政にまたがる
病院拠点型ワンストップ支援センター
性暴力被害者支援看護師SANE(セイン)配置

性暴力の定義

- 定義

「同意のない・対等でない・強要された性的行為はすべて性暴力である」

性暴力は人権侵害を引き起こす言動であり、性に関わるものすべてが含まれます。

1. レイプや強制わいせつなど
2. 子どもを対象とした性虐待（保護的な関係にある父親、兄、祖父などによるもの）
3. DVとしての性暴力
を具体的にあげています。

* 性暴力救援センター大阪SACHICOの趣意書より

性暴力救援センター日赤なごやなごみ

性暴力被害者

警察

名古屋第二赤十字病院内 ホットライン

性暴力救援センター日赤なごやなごみ

支援員(アドボケーター)
性暴力被害者支援看護師(SANE)・救外看護師
産婦人科医・救急医・小児科医・泌尿器科医
精神科医・臨床心理士・MSW
院内窓口で患者や家族に関わるスタッフ

その他の
関係機関

団体・個人
ボランティア
など

地域の医療福祉組織

小児科・産婦人科
精神科医
県産婦人科医会
県助産師会
県看護協会

法関係

弁護士
日本司法支
援センター
法テラス

行政機関

県・市
県警
区警察等
児童相談所

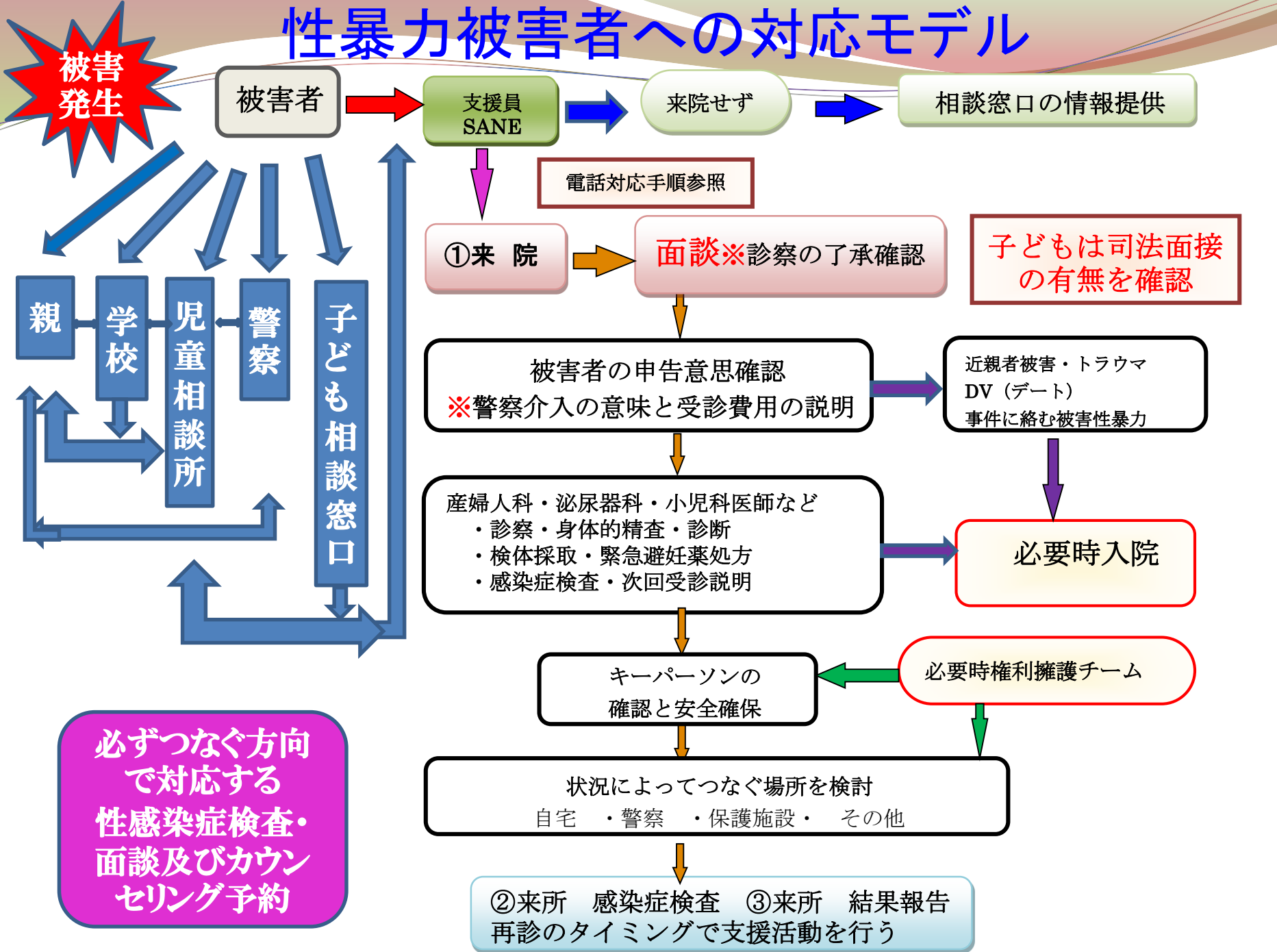
日本フォレンジック
ヒューマンケアセンター

支援者・コーディネー
ター・専門家の養成
スタッフの研修・広報
普及活動

支援内容と担当者の役割

支援内容	アドボケーター	SANE	医師	MSW	精神看護専門 看護師
24時間 ホットライン	○ 8:30~20:30	○ 20:30~8:30		○ 適時	
面談相談	○ 必要時	○	○ 適時	○	○
緊急医療処置		○	○		
心理的支援		○	○ 必要時	○	○
法的支援		○		○	
生活支援		○		○	
同行支援	○			○	
ケース カンファレンス	○	○	○ 必要時	○	○

性暴力被害者への対応モデル



1. 24時間ホットライン体制

大事にしていること

被害直後すぐに対応できる

被害者がいつでもかけたいときにつながる

体制 支援員(8:45~20:45) SANE(20:45~8:45)
電話回線は1回線にて、15分以内に対応

気持ちに寄り添い、話を傾聴し、必要な情報の提供、できる支援について説明する。
できるだけ来所による相談を勧める

緊急度の確認と安全確認

被害発生72時間以内はすぐに来所を促す

不安なときの連絡は、短時間でも聞くことで落ち着くことが多い。

2. 面接相談

大事にしていること

相手の気持ちにより添う
できることを一緒に考える

体制 SANEが対応し、来所してくれたことを認める。
被害状況を聞きながら、身体的、精神的、社会的面から
症状を確認する
(最終生理、ピル服用の有無、必要時被害後の性交の有無
診察の有無、男性医師の確認など)
証拠採取の有無
警察等への通報
子どもの時は常に司法面接手法を意識する
詳しく何度も聞かない

3. 緊急医療支援

大事にしていること

被害による身体的・心理的不安を緩和する
証拠採取の時期をのがさない

体制

性暴力被害による全身状態の確認と診断
産婦人科医療

妊娠の可能性と予防

レイプ被害から72時間以内に避妊薬服用
(ノルレボ錠1.5mg)

性感染症検査(通常は1ヶ月後)

診察にて子どもの負のボディイメージを回復

男性被害者時は泌尿器科医対応

証拠採取

警察通報有無にかかわらず採取可能

継続的医療の必要性

中絶(21週6日まで)・出産

4. 心理的支援

大事にしていること

いつでもつらくなったら電話してよいことを伝えておく

体制 初めて来所したときに心理的状況を把握

心理的不安が強いときは精神科医に相談する
低学年の子どもに対しては小児精神医へ相談

被害直後の時はPTSD移行しないように、精神看護
専門看護師の面談を勧め、予約する

PTSD症状の確認を行い、治療の必要性を説明する

必要時、精神科医療機関を紹介し、協働して支援する

5. 法的支援

大事にしていること

いつでも要望に応じて相談
できる体制



体制

県警への相談

警察届出事案をなごみへ連絡

証拠採取キットの常備(5セット)と採取

警察通報による来院、速やかな対応

弁護士32名登録

性暴力・虐待・DV関連各担当者1名が

2週間毎のシフトで対応

被害直後からの相談対応

初回相談はなごみで対応可能

6. 生活支援

大事にしていること

被害者の安全・安心な生活をめざす

体制 多機関多職種との連携を有効に活用する
一時保護

社会的資源を最大限活用する

顔の見える関係を日頃から築く

7. 同行支援

大事にしていること

同行することで、被害者が必要とする機関につながり、訴えることができる

体制

声が出せない・出しにくい被害者の権利を擁護し、必要に応じて同行支援を行うこと

初回、警察・法律事務所・精神科医療機関など行くときに同行する

警察官・弁護士がなごみで対応するときに同席する

8. なごみ連携ケースカンファレンス

大事にしていること

被害者を中心に学校・仕事・生活が継続できるように速やかにチームで支援する

体制

本人および必要に応じて家族も参加

ケースに関係する機関が一同に集まり、
情報交換および支援内容を検討する

本人の同意の元、支援を行う

なごみ関連会議

【なごみ連携推進会議】

2016年より開始

2ヶ月に1回

【なごみ運営委員会】

2016年より開始

2ヶ月に1回

目的：被害者支援体制の構築
関連機関との連携強化の推進

委員

院内：SANE・MSW・産婦人科医・小児科医
精神科医・泌尿器科医

院外：A県（2019より）・N市3部署・弁護士
N市児童相談所（2018より）産婦人科医
法医学医・精神科医・警察・検察
日本フォレンジックヒューマンケアセンター
（旧ライフケア研究所）・NPO被害者支援団体

目的：運営に関すること
施設・設備に関すること
院内の連携強化

委員

婦人科医・小児科医・救急医・精神科医・泌尿器
科医・看護師・臨床心理士・検査技師・MSW・事
務

事例検討会

- 目的 性暴力被害者支援員の質向上に勤める。
関係機関との連携を図る
- 参加者 アドボケーター・SANE・MSW・医師
関係機関(警察・行政女性相談・支援団体)

1. ケースカンファレンス・ミニレクチャー(2016年4月～)

開催回数 毎月1回 17:30～19:00

2. 弁護士拡大事例検討会(2018年～)

開催 年1回 第一回 2018年5月28日 第2回2019年7月10日

参加者 なごみ登録弁護士

3. 精神科医療機関事例検討会(2018年9月～2019年5月)

開催 2ヶ月に1回

参加者 精神科医療センター医師・臨床心理士・MSW・SANE等

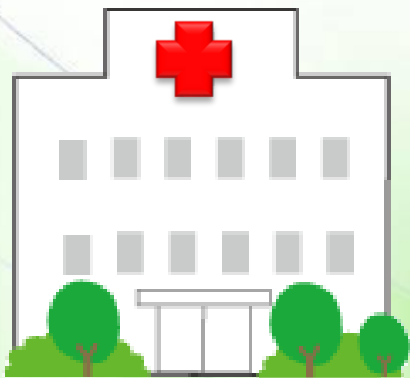
4. 児童相談所事例検討会(2020年3月11日)

開催 年1～2回

参加者 市の児童相談所弁護士

2016年1月5日～2019年12月31日

統計報告



名古屋第二赤十字病院
性暴力救援センター
日赤なごやなごみ

2016年1月5日～2019年12月31日

4年間の総計

電話延べ件数

5290件

来所延べ件数

1397件

診察延べ件数

489件

新規受付実人数

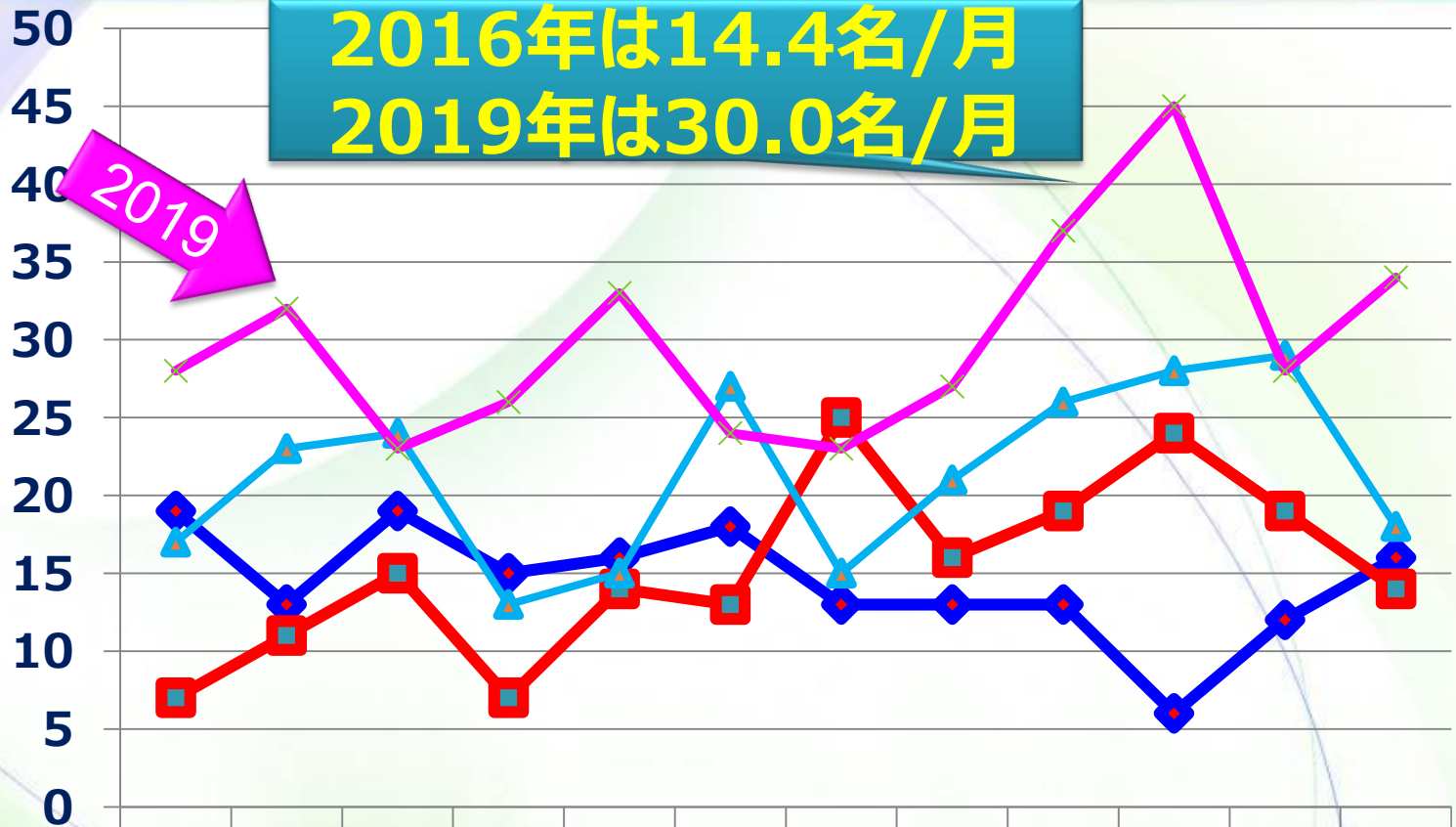
973名

そのうち面談相談実人数

474名

2016年1月5日～2019年12月31日

受付実人数

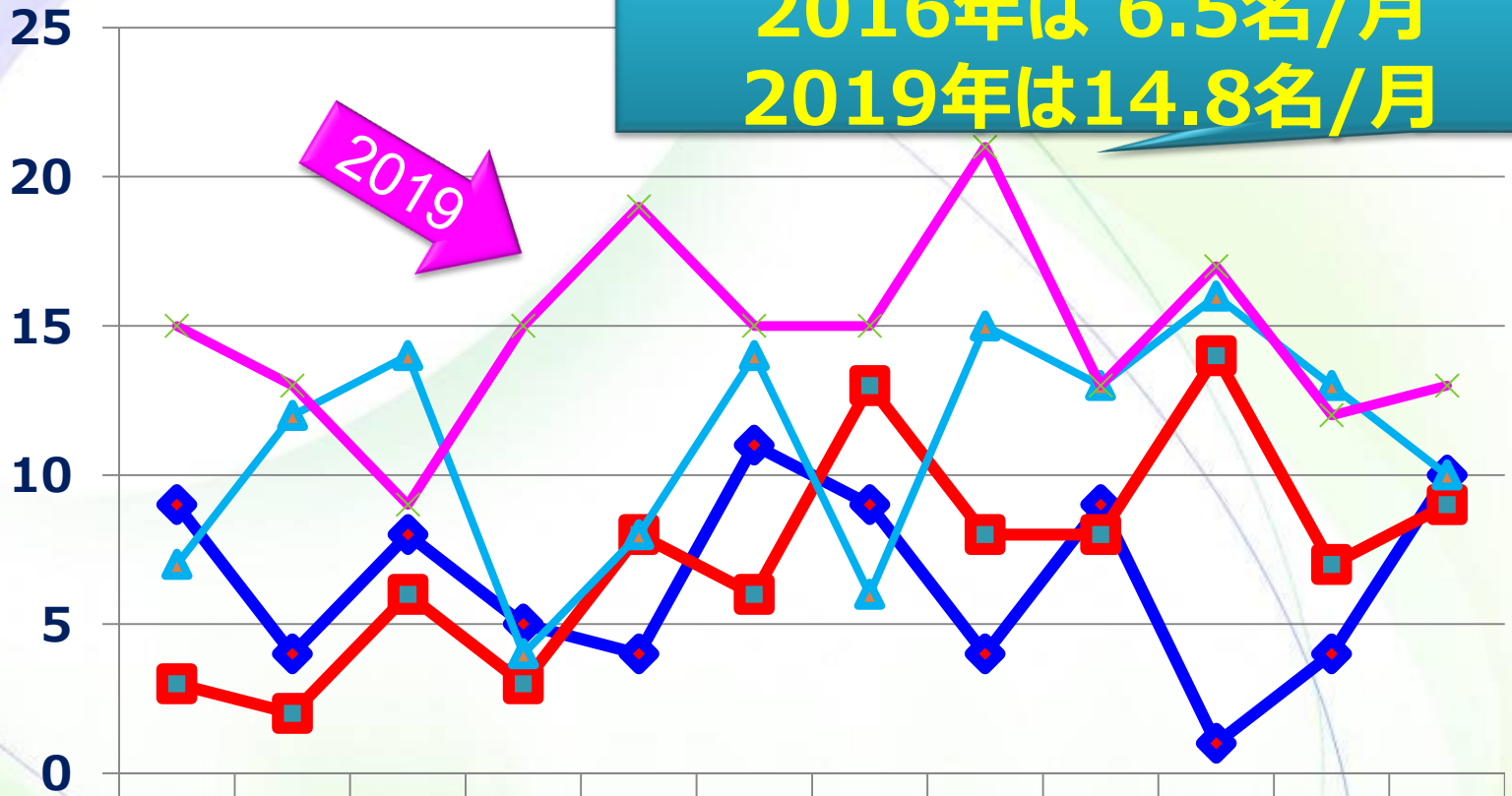


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
◆2016新規受付	19	13	19	15	16	18	13	13	13	6	12	16	173
■2017新規受付	7	11	15	7	14	13	25	16	19	24	19	14	184
▲2018新規受付	17	23	24	13	15	27	15	21	26	28	29	18	256
×2019新規受付	28	32	23	26	33	24	23	27	37	45	28	34	360

2016年1月5日～2019年12月31日

2016年は 6.5名/月
2019年は14.8名/月

来所実人数

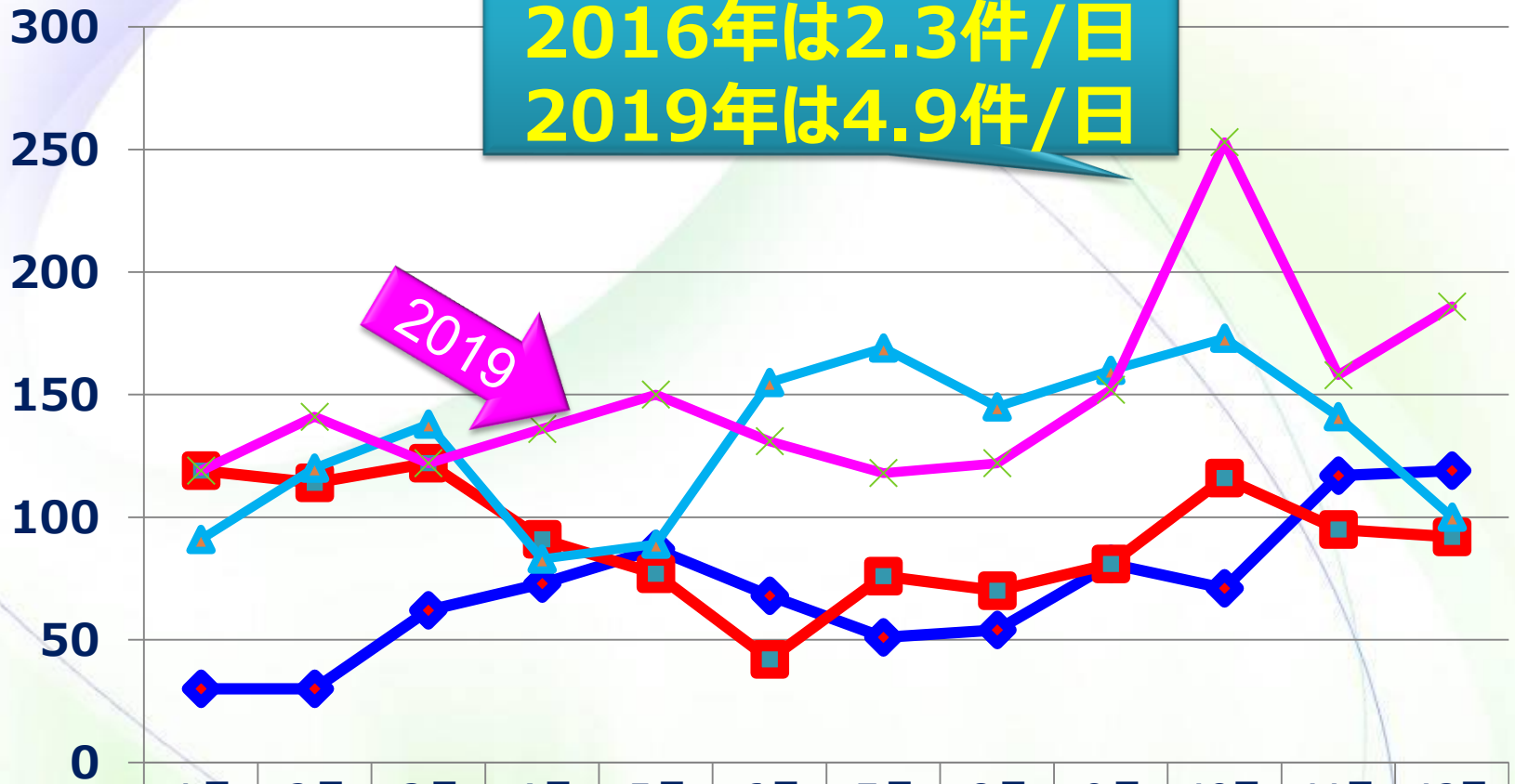


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
◆2016来所面談	9	4	8	5	4	11	9	4	9	1	4	10	78
■2017来所面談	3	2	6	3	8	6	13	8	8	14	7	9	87
▲2018来所面談	7	12	14	4	8	14	6	15	13	16	13	10	132
×2019来所面談	15	13	9	15	19	15	15	21	13	17	12	13	177

2016年1月5日～2019年12月31日

電話のべ件数

2016年は2.3件/日
2019年は4.9件/日

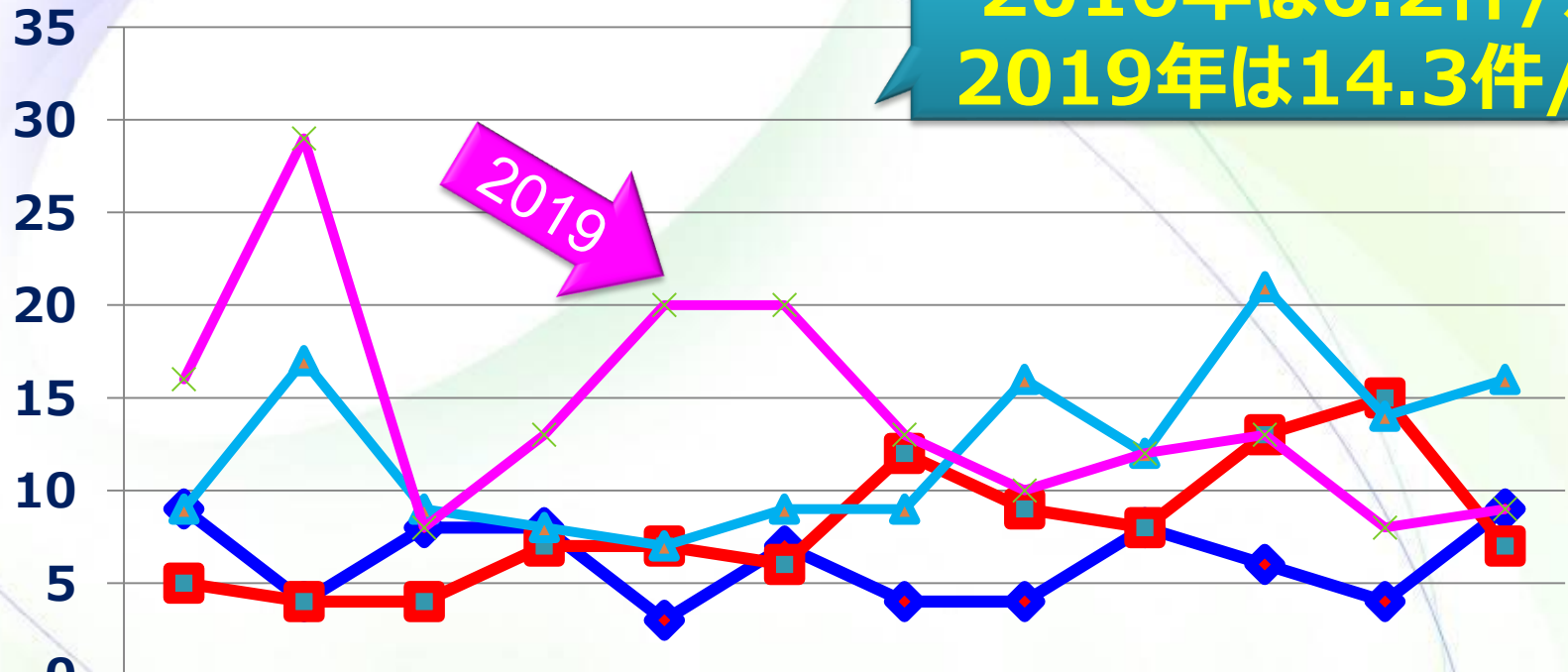


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
◆2016電話	30	30	62	73	87	68	51	54	81	71	117	119	843
■2017電話	119	114	122	91	77	42	76	70	81	116	95	92	1095
▲2018電話	91	120	138	83	89	155	169	145	160	173	141	100	1564
×2019電話	119	141	122	136	150	131	118	122	152	253	158	186	1788

2016年1月5日～2019年12月31日

2016年は6.2件/月
2019年は14.3件/月

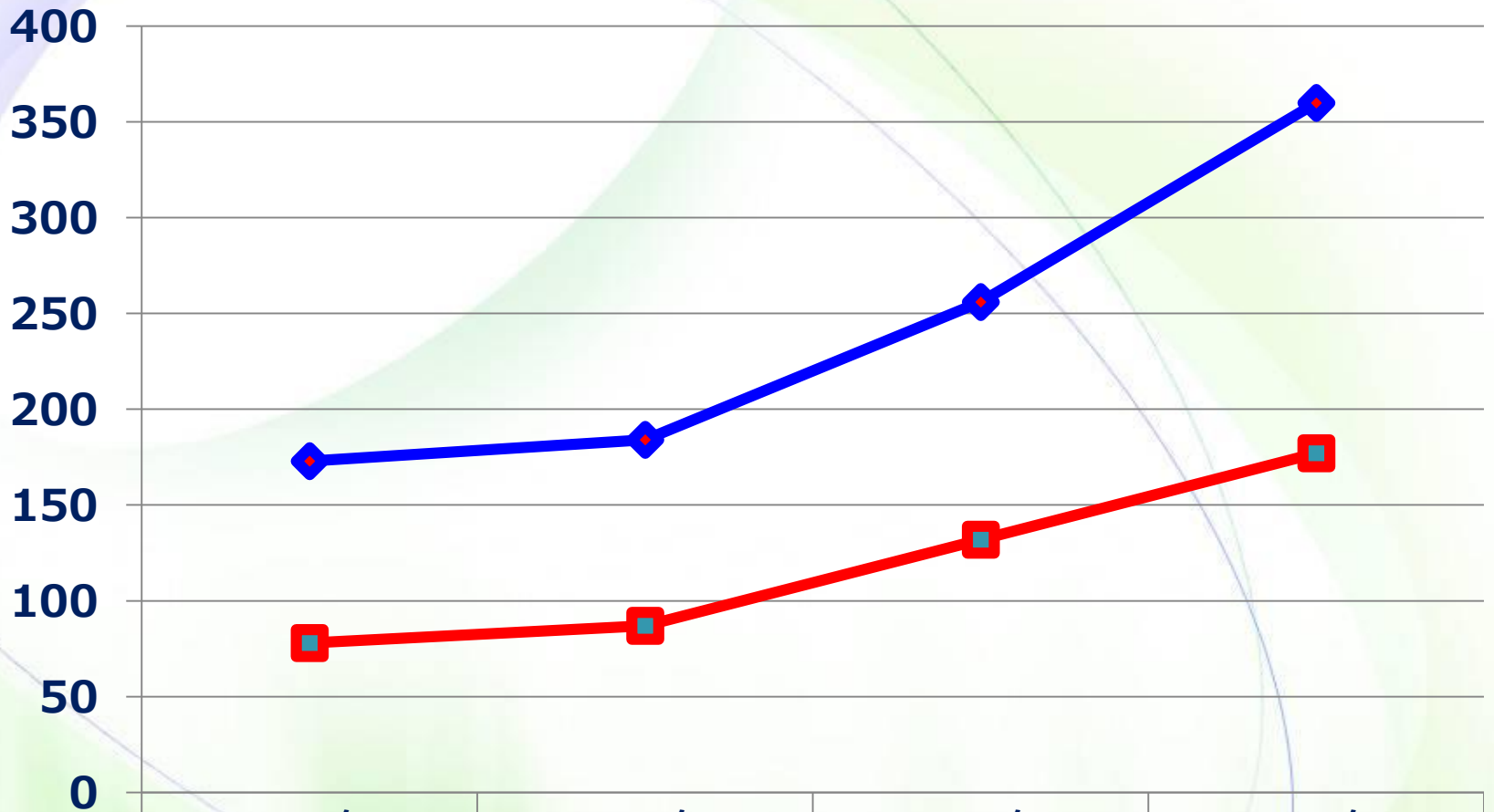
診察のべ件数



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年合計
◆ 2016診察	9	4	8	8	3	7	4	4	8	6	4	9	74
■ 2017診察	5	4	4	7	7	6	12	9	8	13	15	7	97
▲ 2018診察	9	17	9	8	7	9	9	16	12	21	14	16	147
× 2019診察	16	29	8	13	20	20	13	10	12	13	8	9	171

新規受付者数の推移

新規受付者数の推移



◆ 新規受付電話
■ 新規来所受付電話

2016年

2017年

2018年

2019年

173

184

256

360

78

87

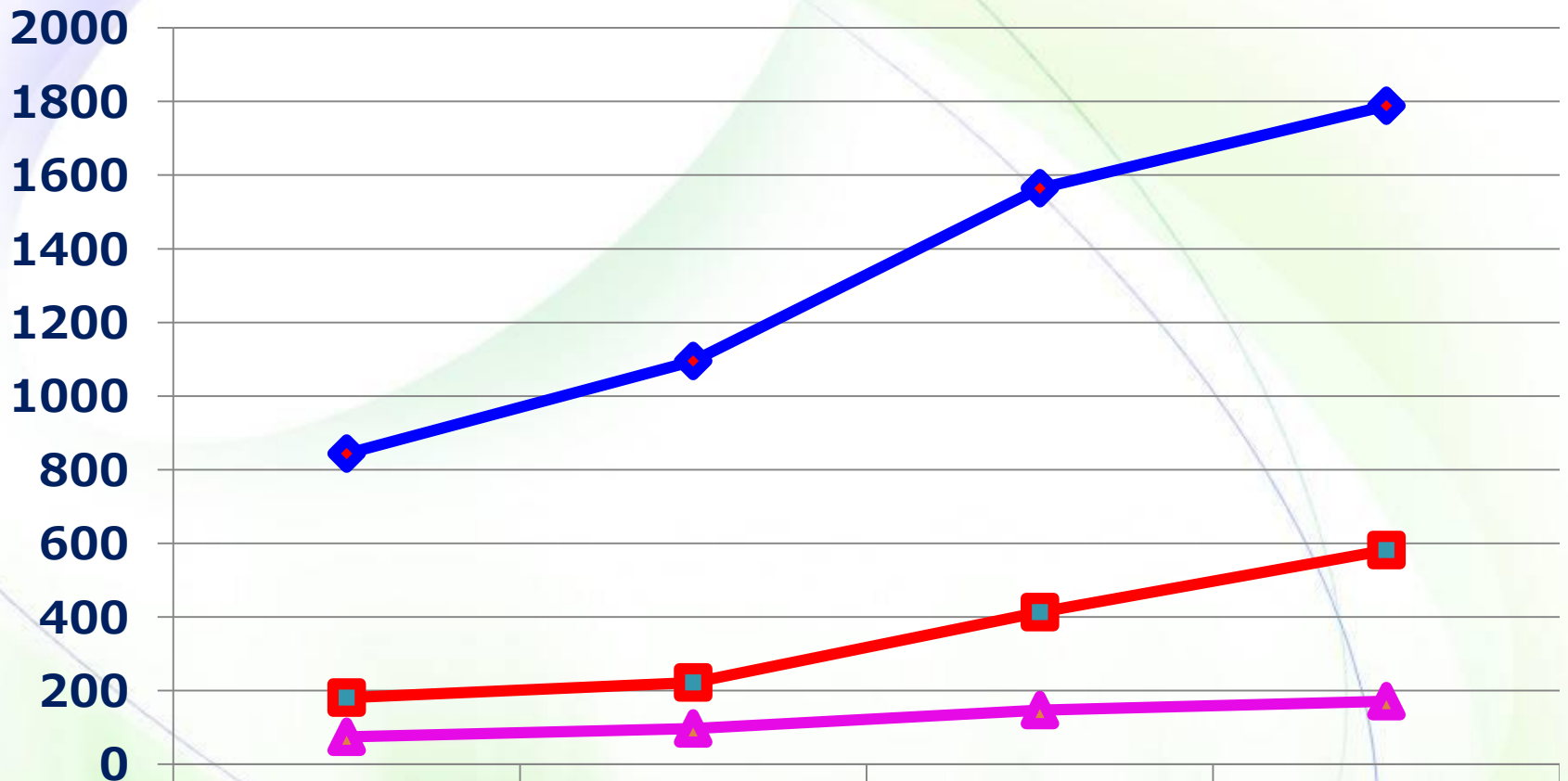
132

177

2016年1月5日～2019年12月31日実績

相談のべ件数の推移

相談のべ件数の推移

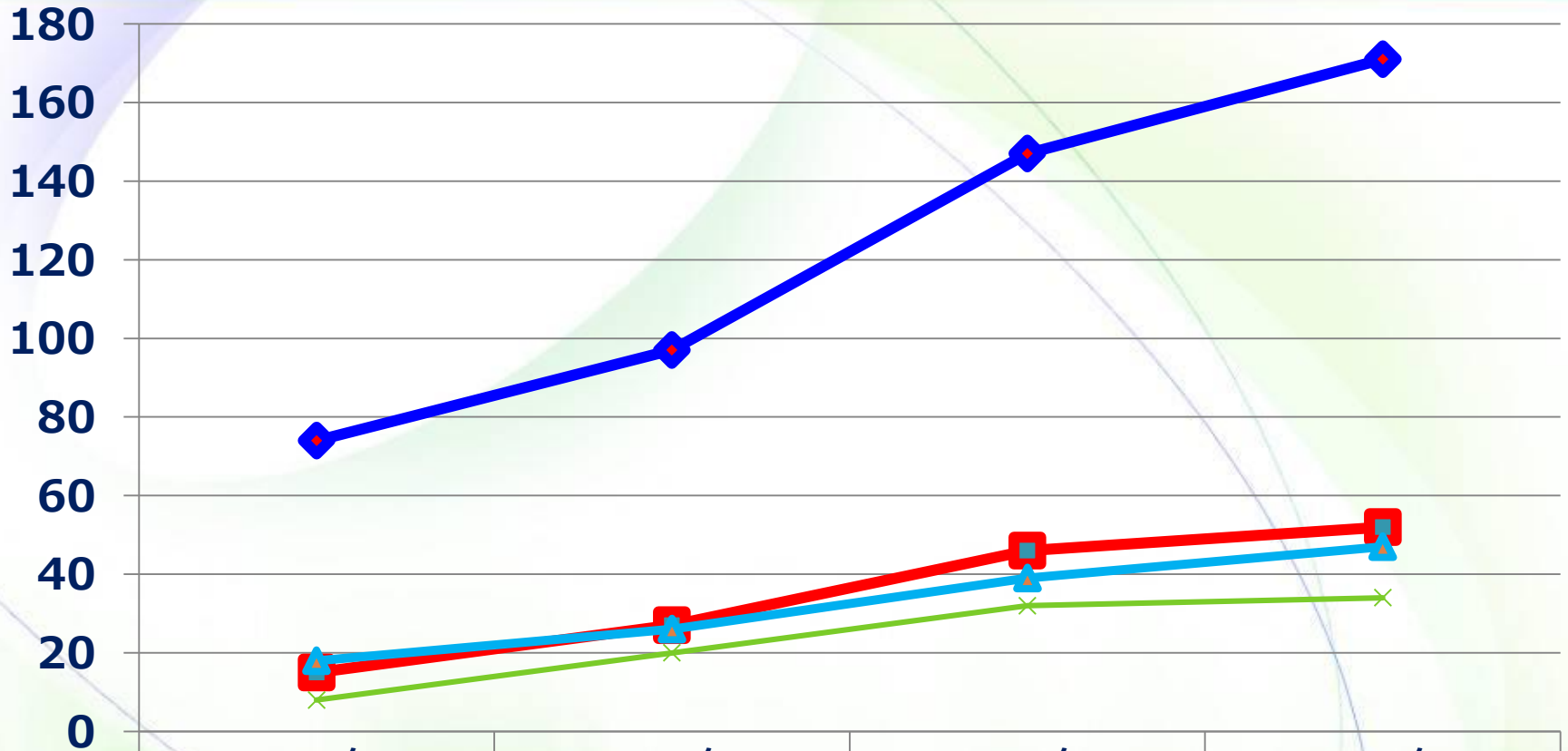


	2016年	2017年	2018年	2019年
電話相談のべ	843	1095	1564	1788
来所相談のべ	181	222	413	581
診察のべ	74	97	147	171

2016年1月5日～2019年12月31日実績

診察内容件数の推移

診察内容件数の推移



	2016年	2017年	2018年	2019年
◆ 診察	74	97	147	171
■ 検体採取	15	27	46	52
▲ 避妊薬処方	18	26	39	47
× 感染症検査	8	20	32	34

2016年1月5日～2019年12月31日実績

新規利用者の性別 973名

LGBT 6 不明・その他 6

男 65

896 女

このうち14名が来所相談

新規相談者の内訳 973名

4割弱は他機関
等からの紹介

知人 40

児童相談所 40

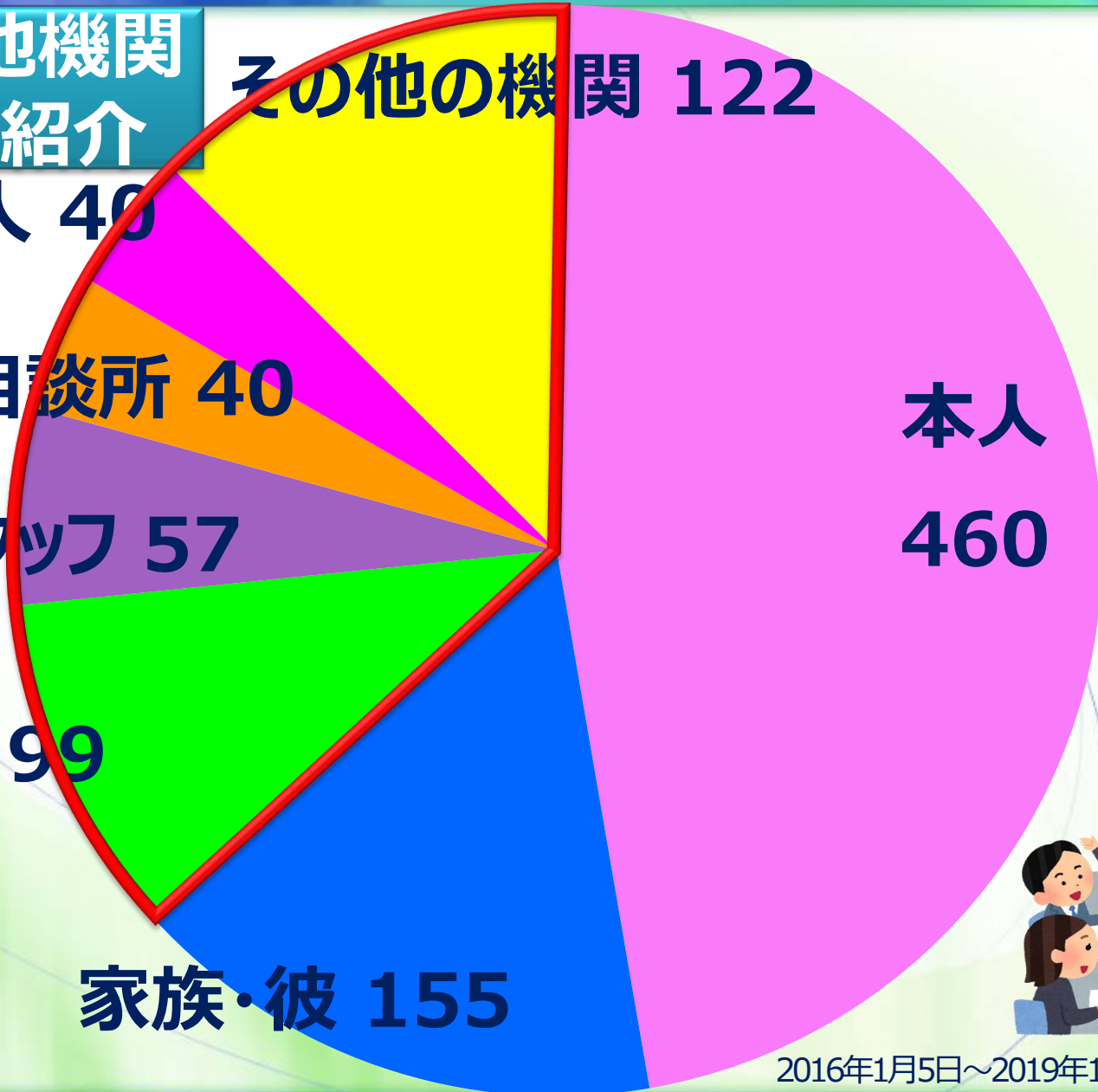
院内スタッフ 57

警察 99

家族・彼 155

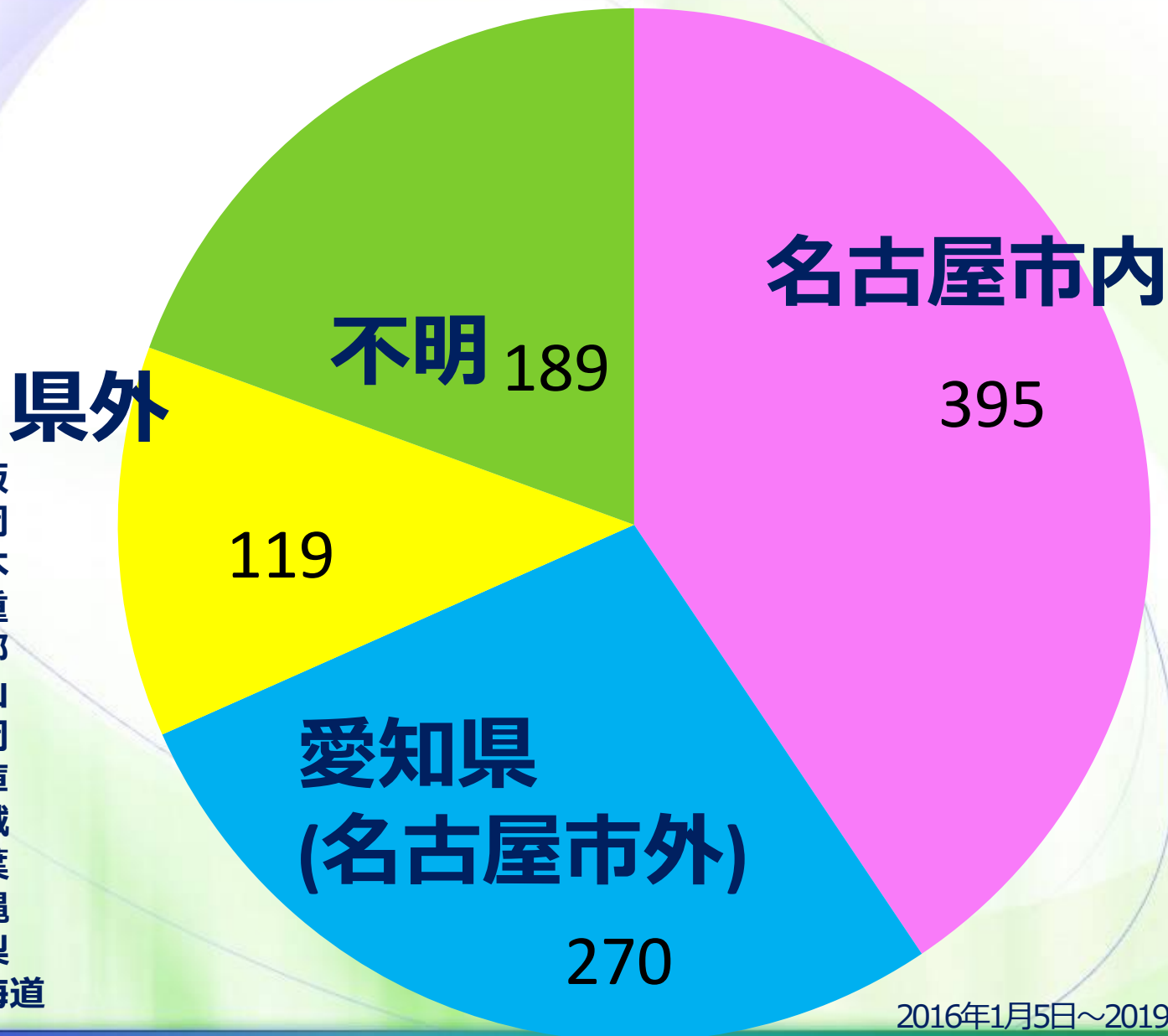
その他の機関 122

本人
460



2016年1月5日～2019年12月31日実績

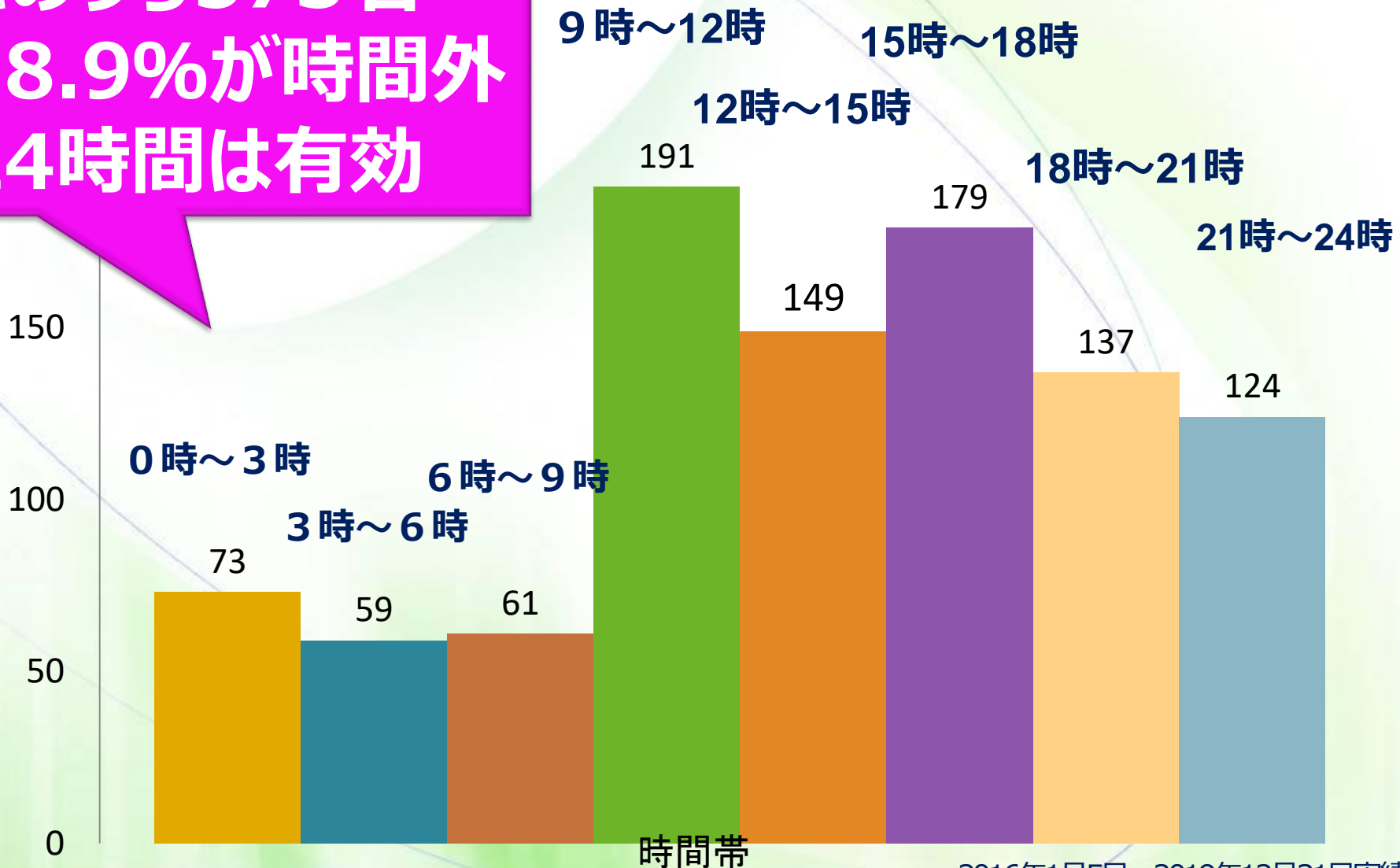
新規利用者の居住地 973名



東京・大阪
岐阜・福岡
徳島・熊本
滋賀・三重
静岡・京都
山口・富山
埼玉・福岡
福島・兵庫
長野・宮城
栃木・千葉
佐賀・沖縄
奈良・山梨
静岡・北海道

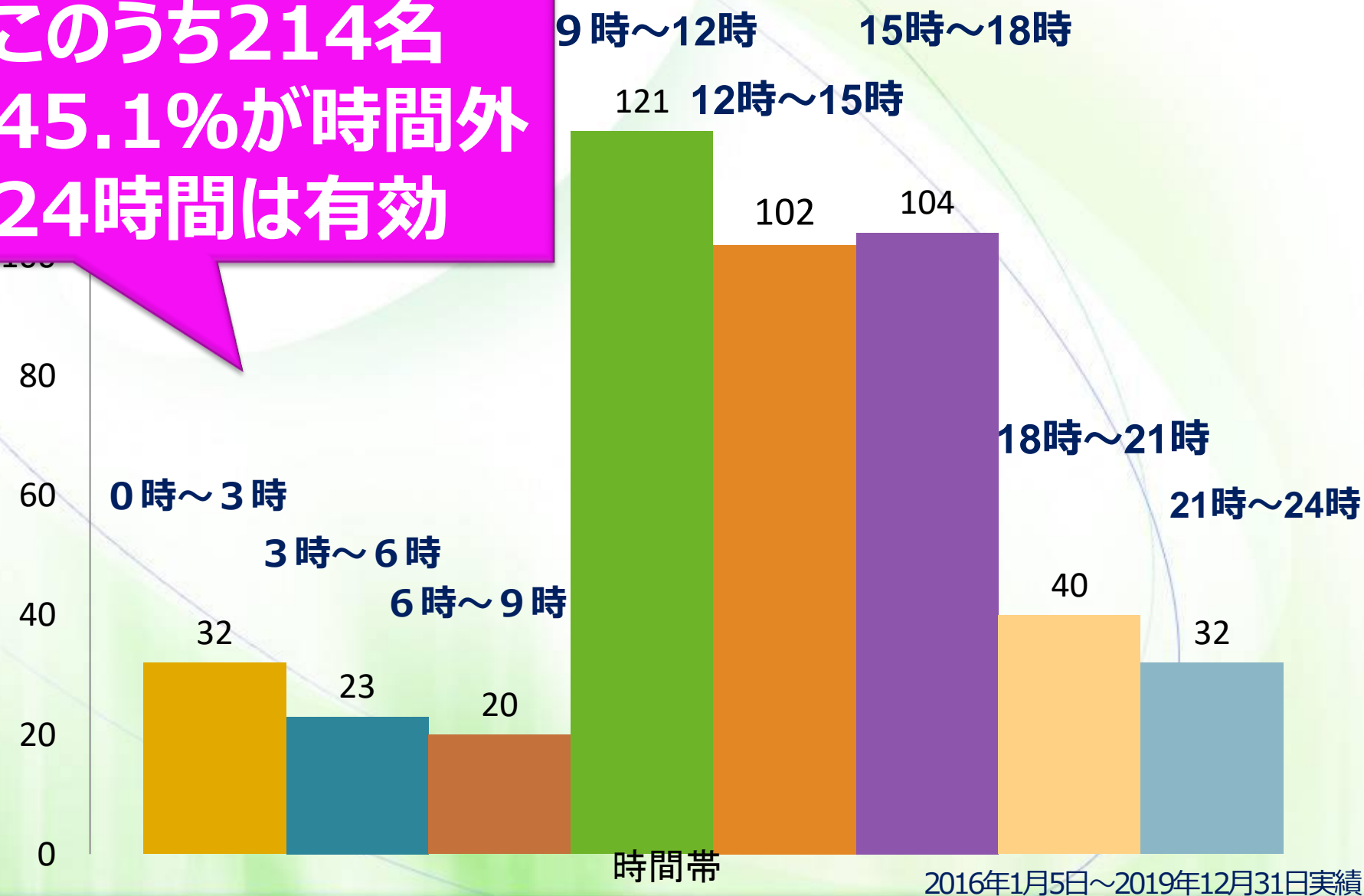
新規電話受付時間 973名

このうち573名
58.9%が時間外
24時間は有効

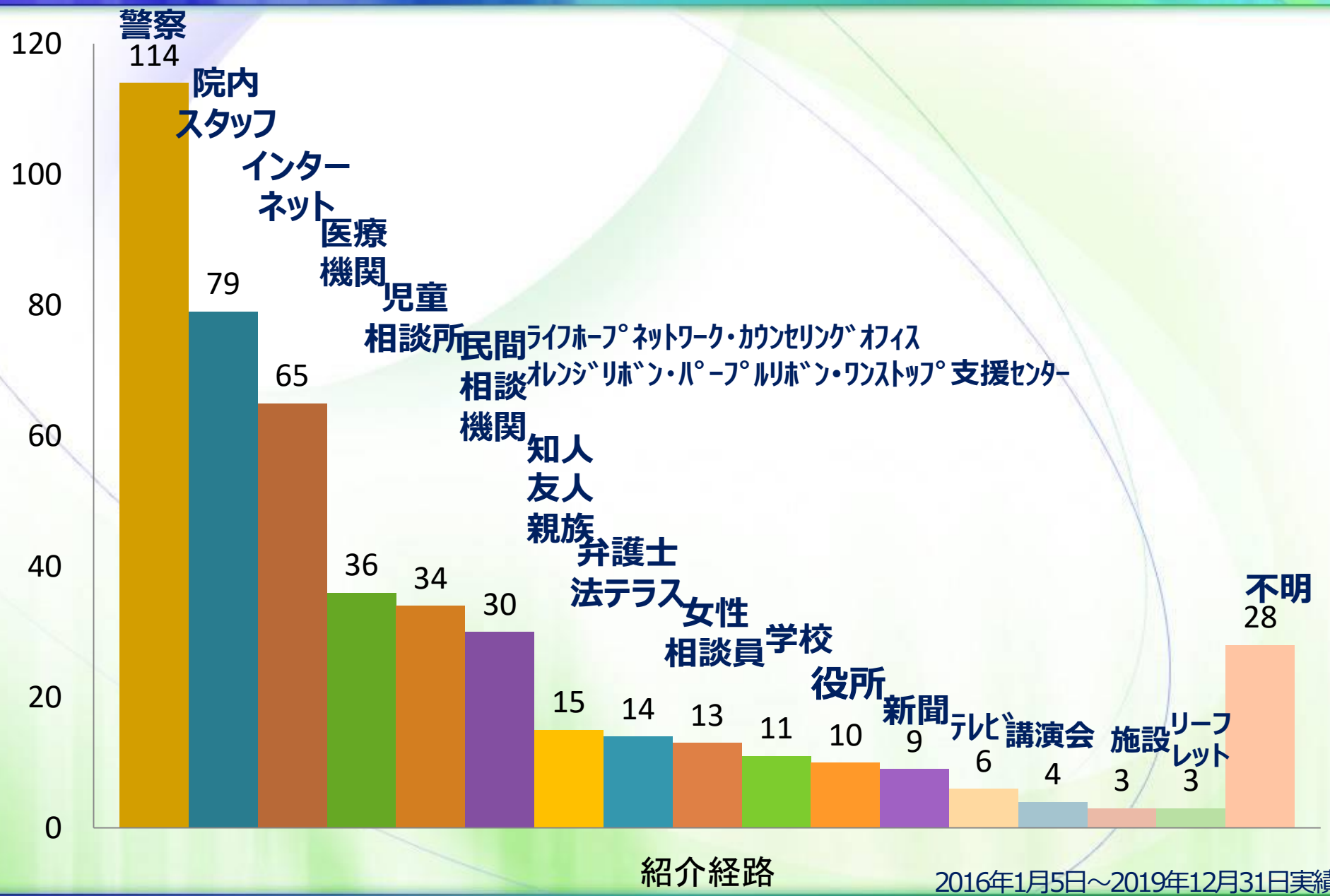


新規来所者の初回来所時間 474名

このうち214名
45.1%が時間外
24時間は有効

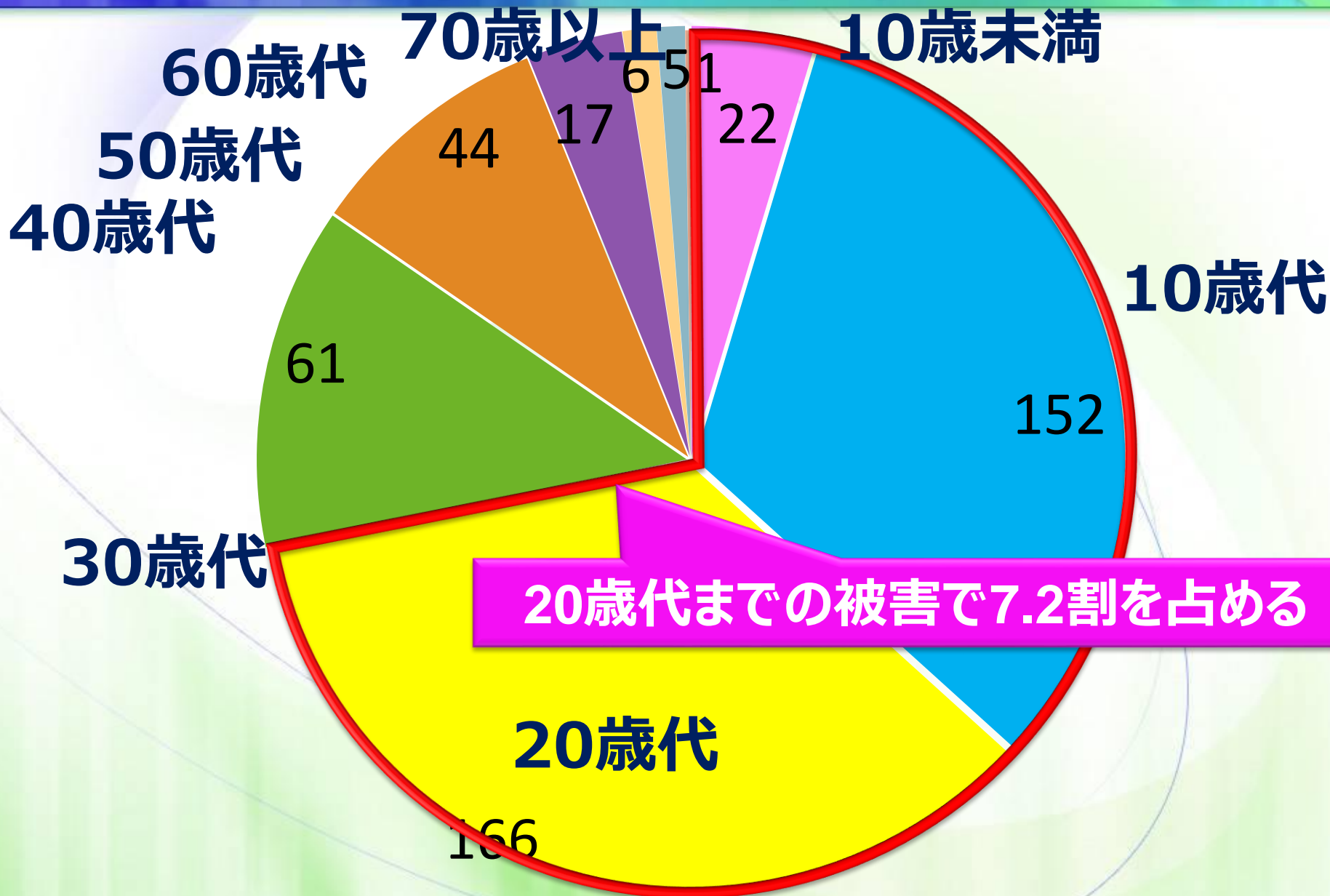


新規来所者の紹介経路 474名



新規来所者の年齢

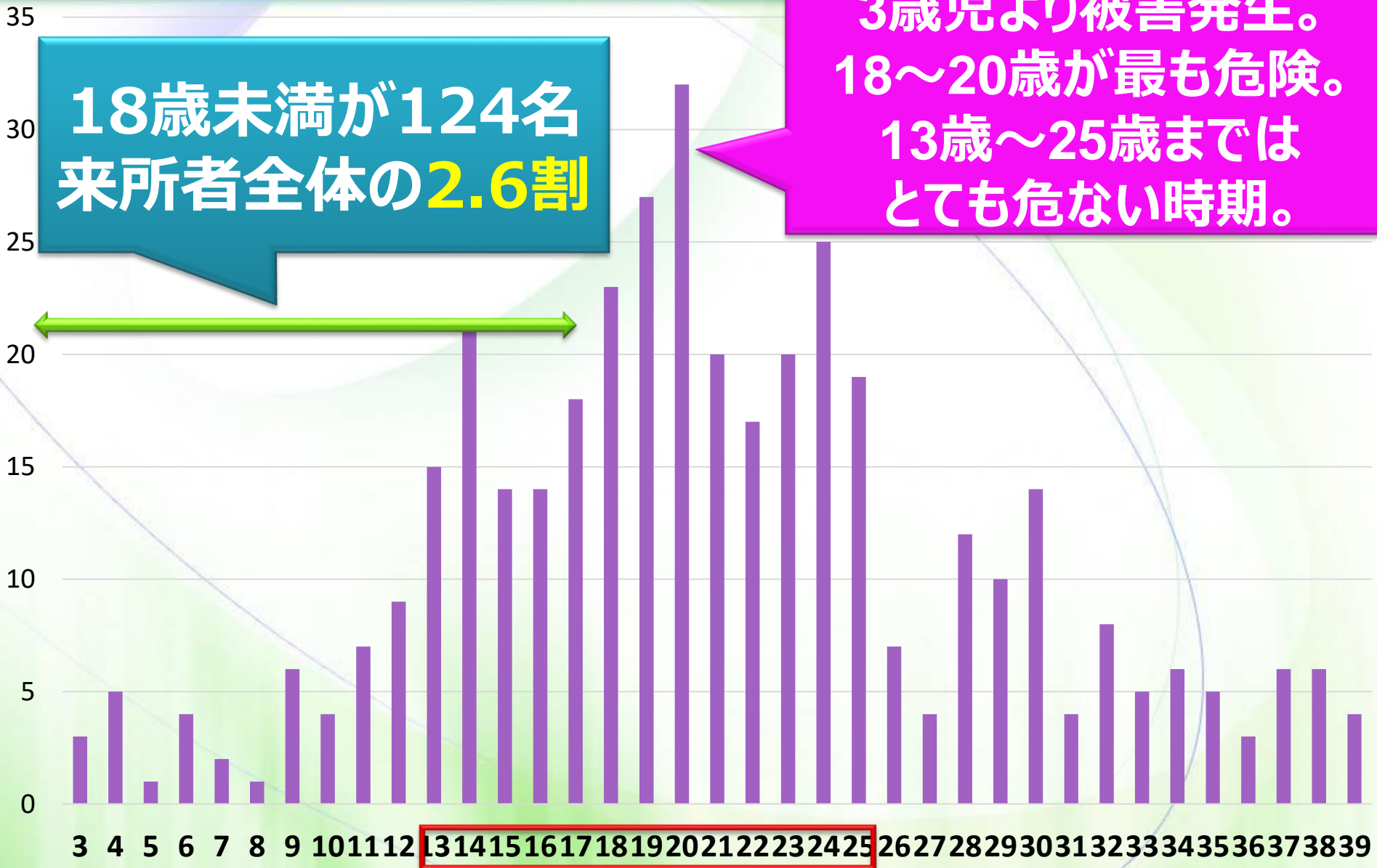
474名



来所者474名中40歳未満の年齢別人数 401名

18歳未満が124名
来所者全体の2.6割

3歳児より被害発生。
18～20歳が最も危険。
13歳～25歳までは
とても危ない時期。



新規来所者の被害状況 474名

その他(売春/詐欺・
セクハラ・家庭内暴力
ストーカー・性非行)

なし(膣閉鎖症・避妊失敗等)

14

性被害

18¹⁹

性虐待

34

強制性交

72

245

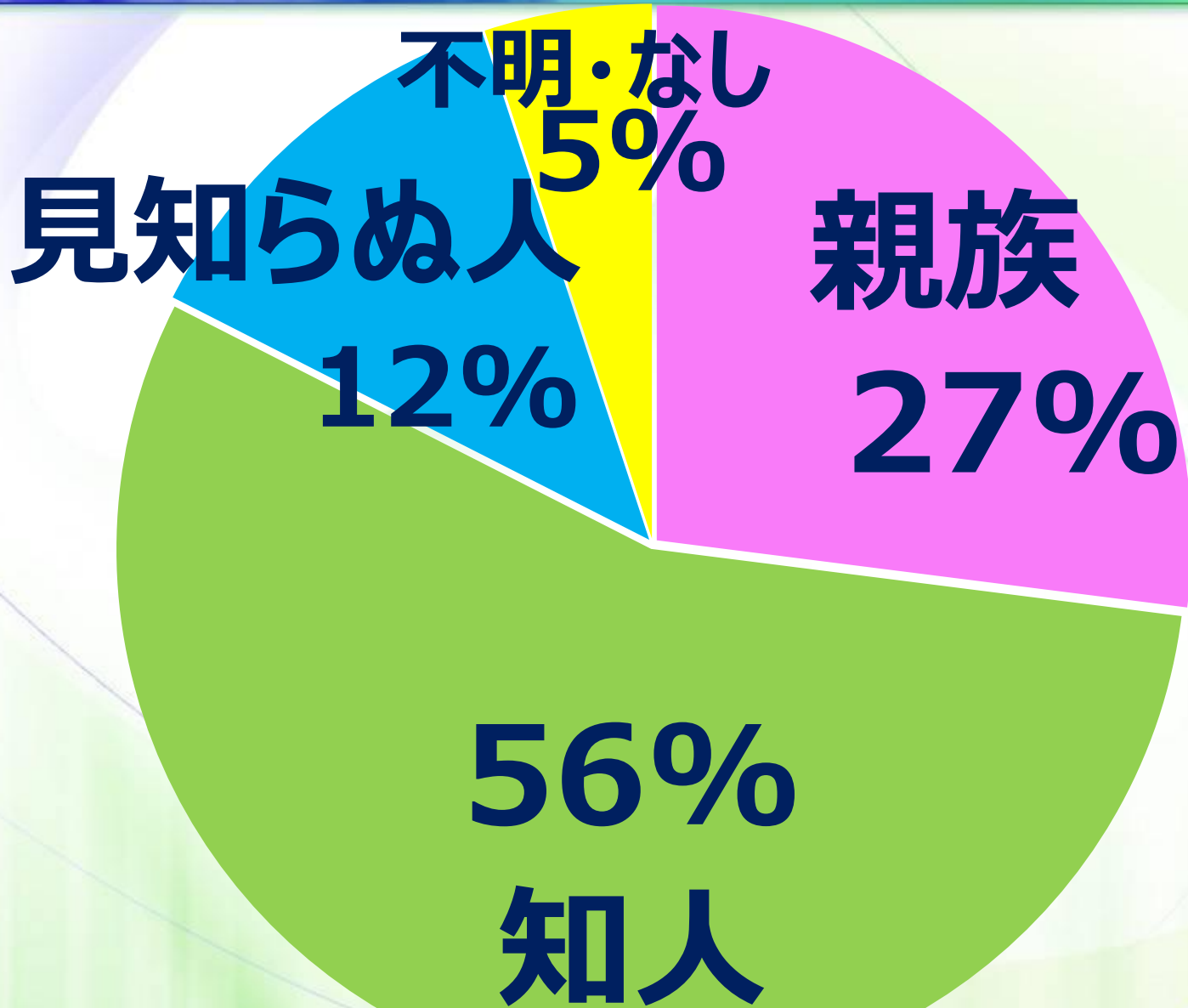
強制わいせつ

5.1件/月

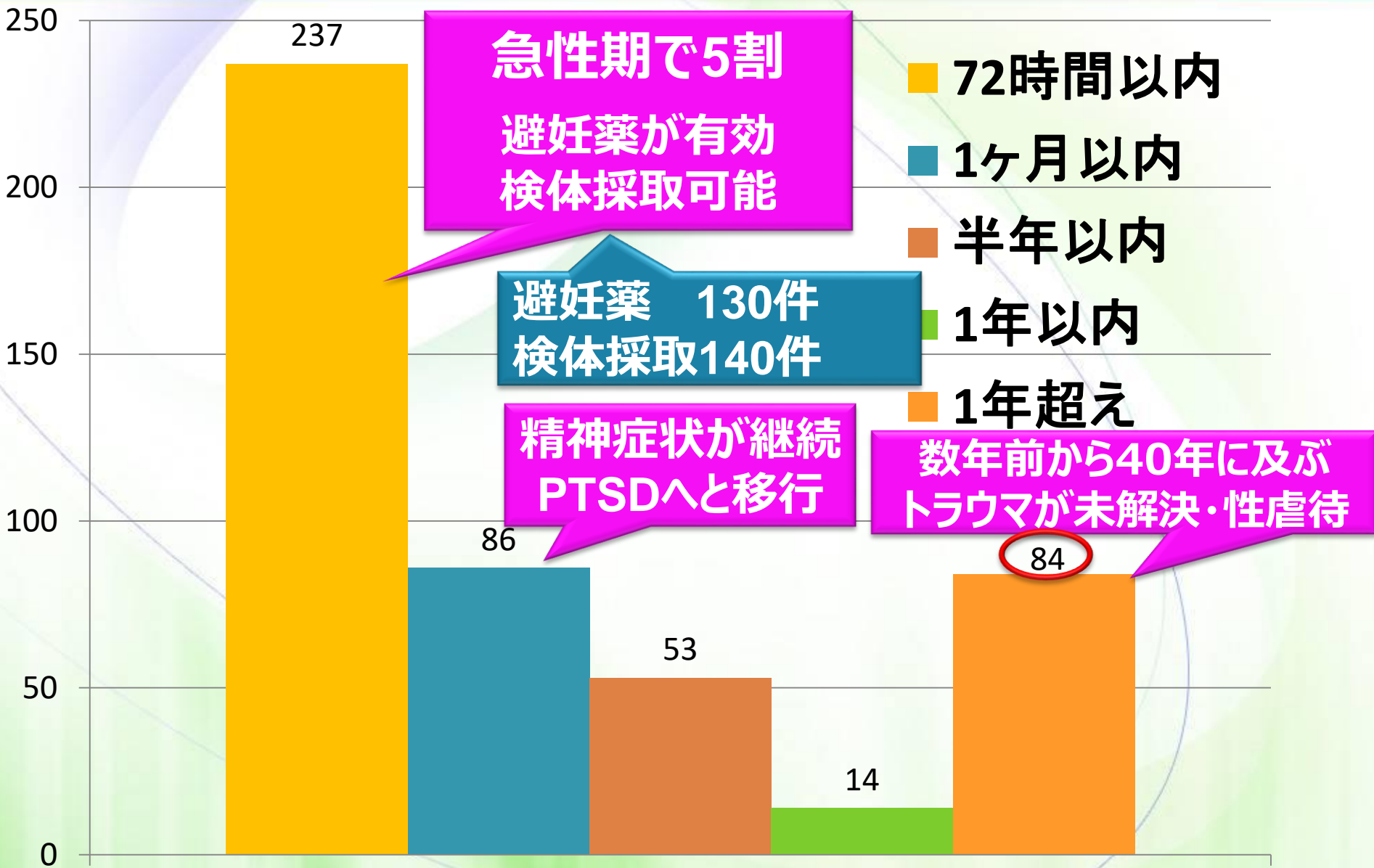
DV
デートDV

72

新規来所者の加害者 474名



新規来所者の発生からの経過時間474名



1年超え来所者の被害時年齢

84名

子どもの時の性虐待等の
トラウマが何年も未解決

26名

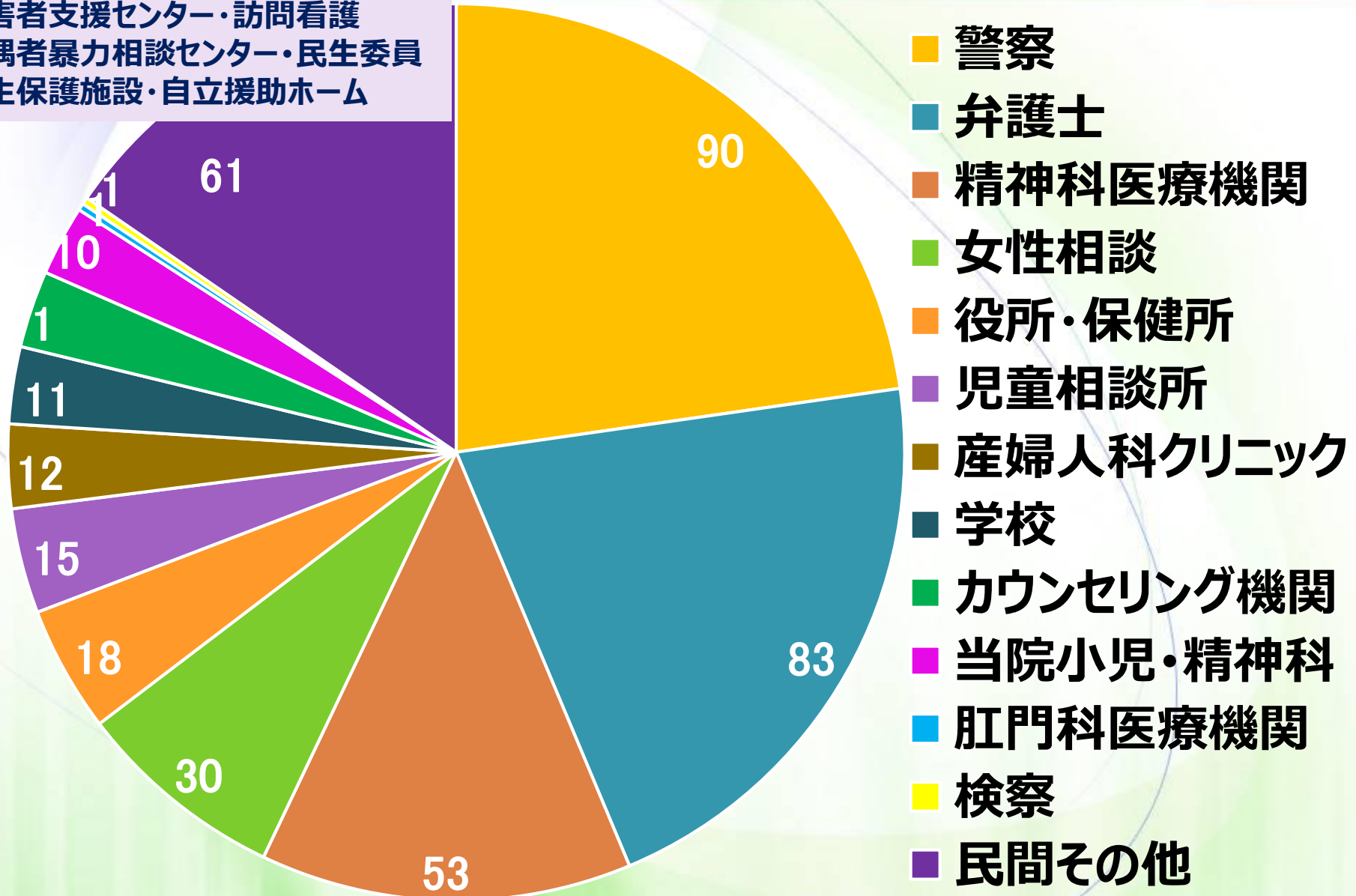
58名

ほぼ7割

- 被害時18歳未満
- 被害時18歳以上

なごみからの紹介 396件

愛知思春期研究会・男性相談
自助グループリボンの会・助産師会
他県ワンストップセンター・CAPNA
障害者支援センター・訪問看護
配偶者暴力相談センター・民生委員
更生保護施設・自立援助ホーム



2016年1月5日～2019年12月31日実績

同行支援

同行先	件数
弁護士	14
警察	5
精神科受診	9
カウンセリング機関	1
施設見学	1
計	30

その他の支援

電話相談・来所面談以外の支援内容

件数

司法面接（検察・警察・児相・医療機関）

3

他機関への訪問による受診の相談

1

他機関からの来所による新規相談

2(役所/児相)

自宅訪問

1

弁護士との初回面談の同席

16

DV相談機関との初回面談同席

1

院内の権利擁護チーム・現場スタッフとのカンファレンス

1

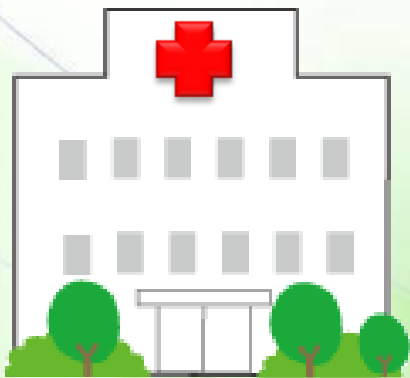
多職種多機関連携の会議・カンファレンス

14

計

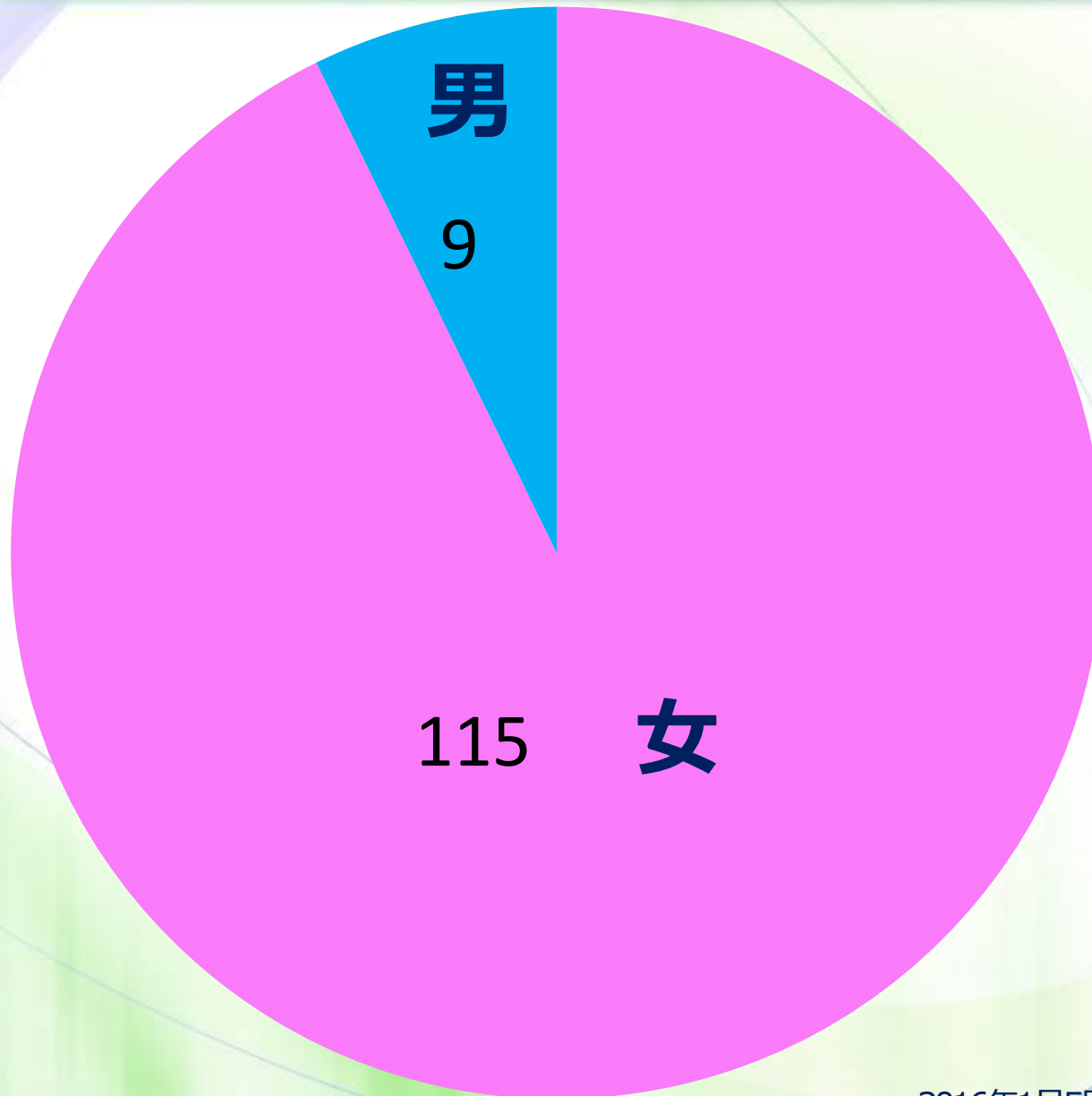
39

2016年1月5日～2019年12月31日
統計報告 -18歳未満-

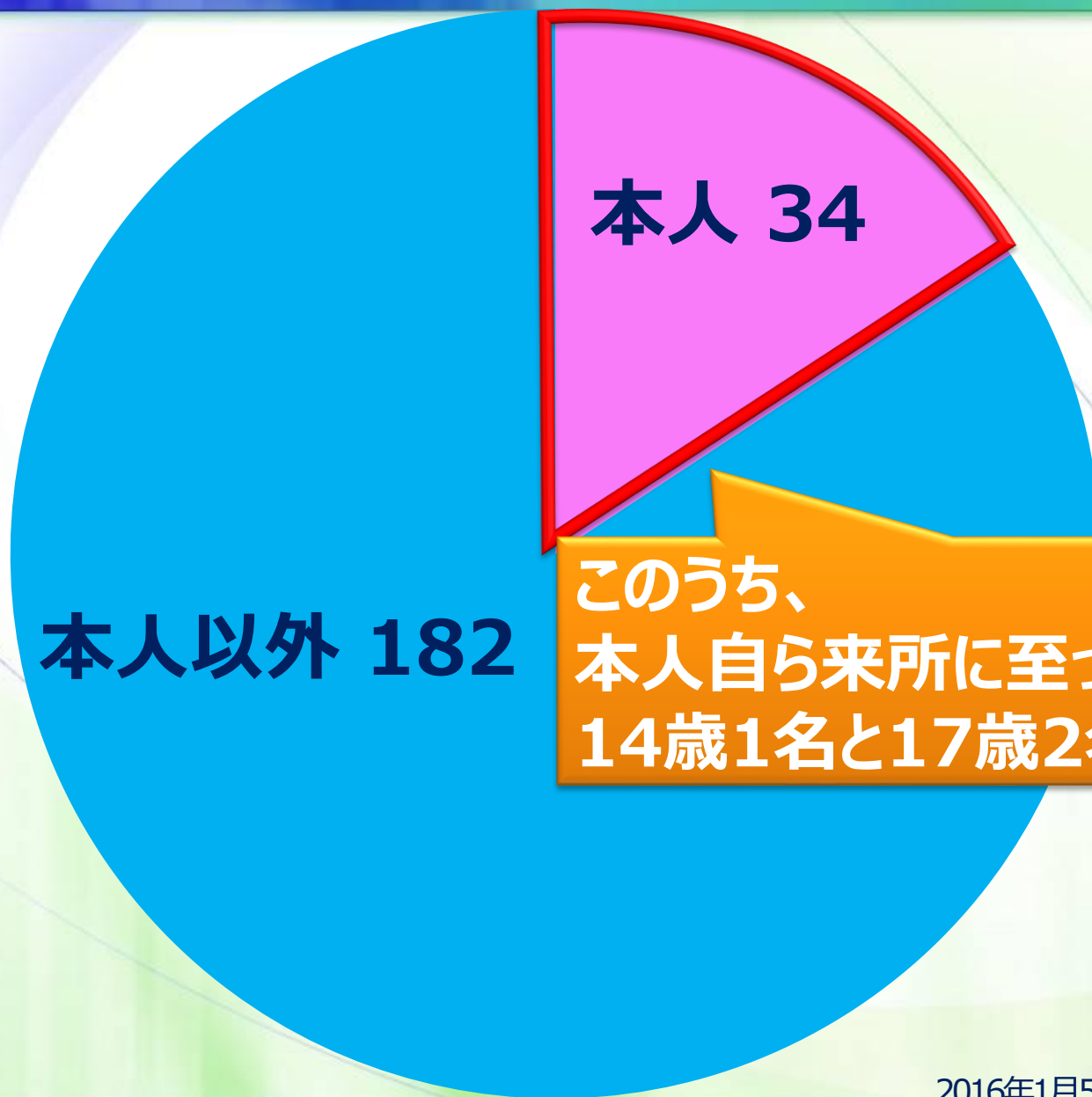


名古屋第二赤十字病院
性暴力救援センター
日赤なごやなごみ

18歳未満新規来所者の性別 124名



18歳未満 新規電話相談者の内訳 216名/973名中

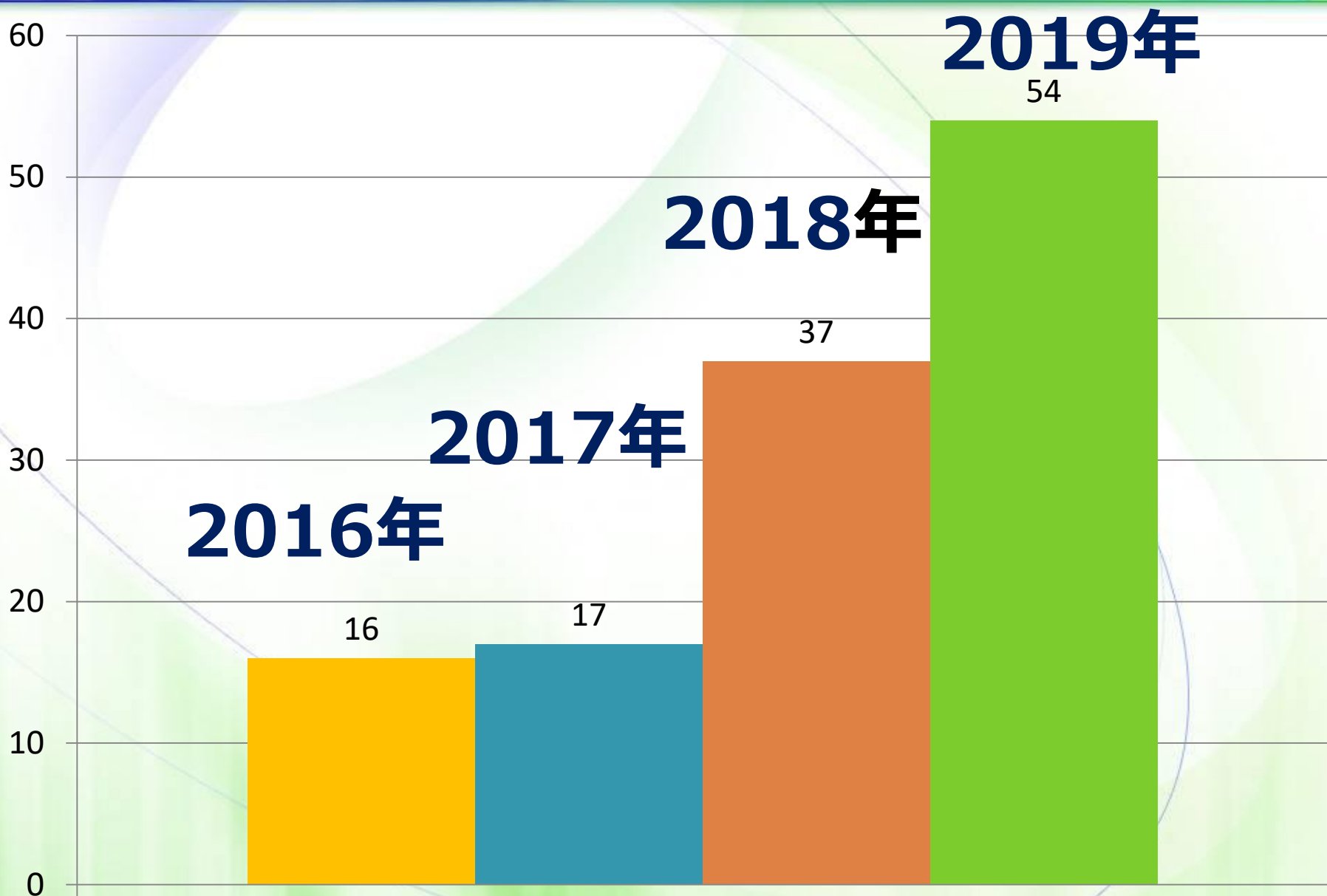


このうち、
本人自ら来所に至った人は、
14歳1名と17歳2名、計3名のみ



18歳未満新規来所者の年推移

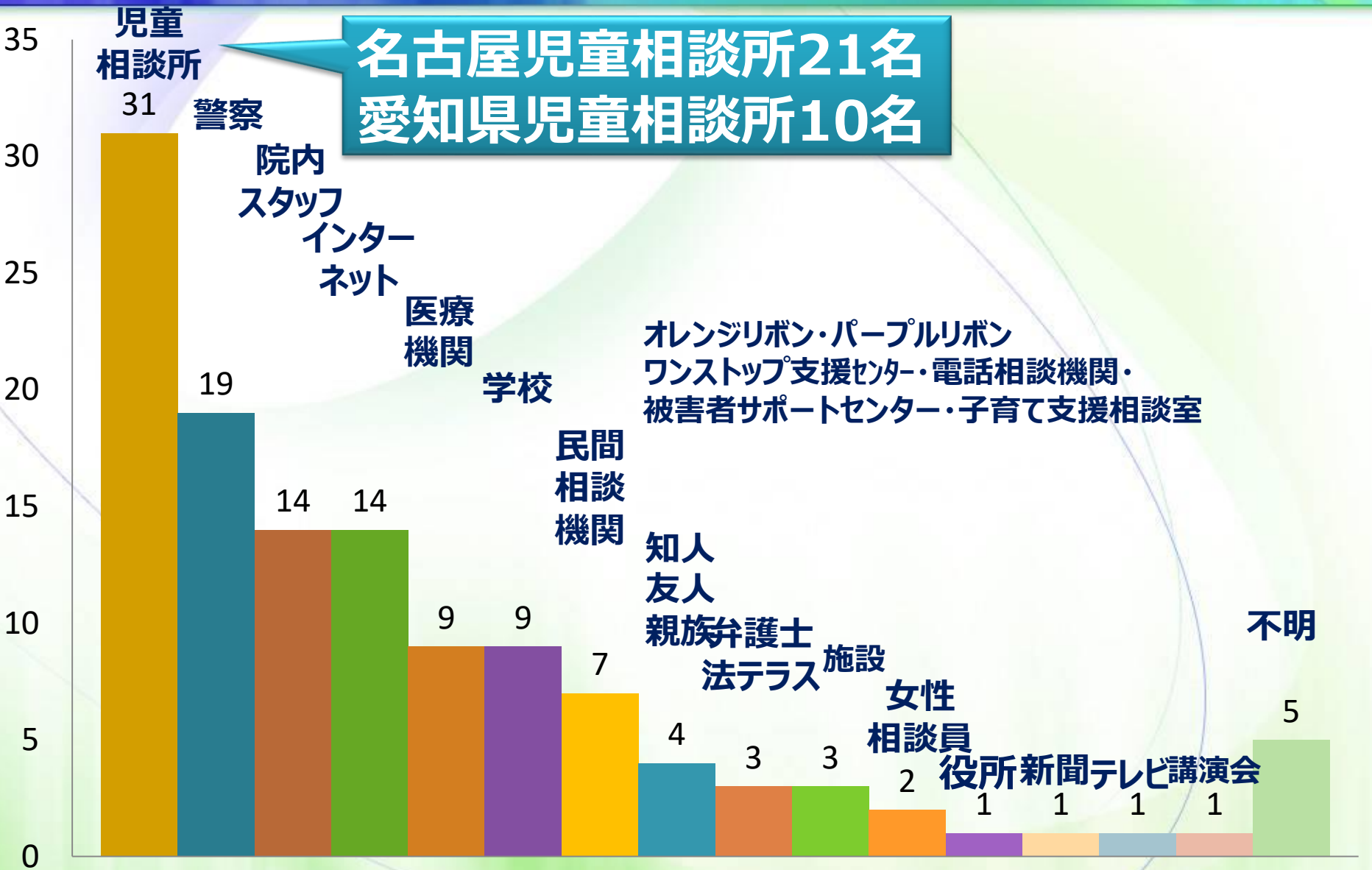
124名



2016年1月5日～2019年12月31日実績

18歳未満新規来所者の紹介経路 124名

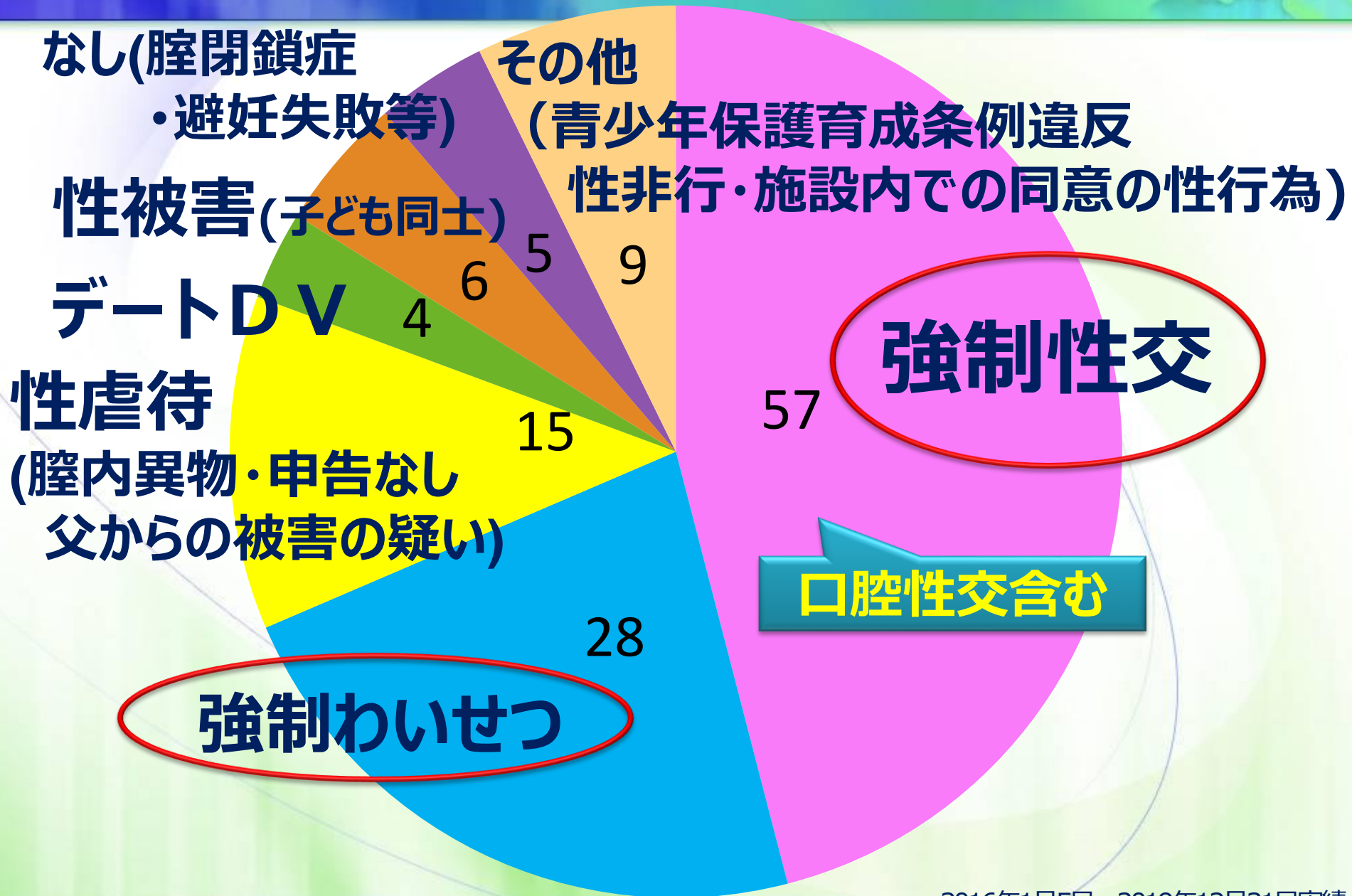
名古屋児童相談所21名
愛知県児童相談所10名



紹介経路

2016年1月5日～2019年12月31日実績

18歳未満新規来所者の被害状況 124名



18歳未満新規来所者の加害者の内訳 124名

彼・彼女 不明・なし

全体の26.6%
父親22名含む
その他、兄・叔父
祖父・従兄等

権威ある人

コーチ・保育士・
教師等

33 親族

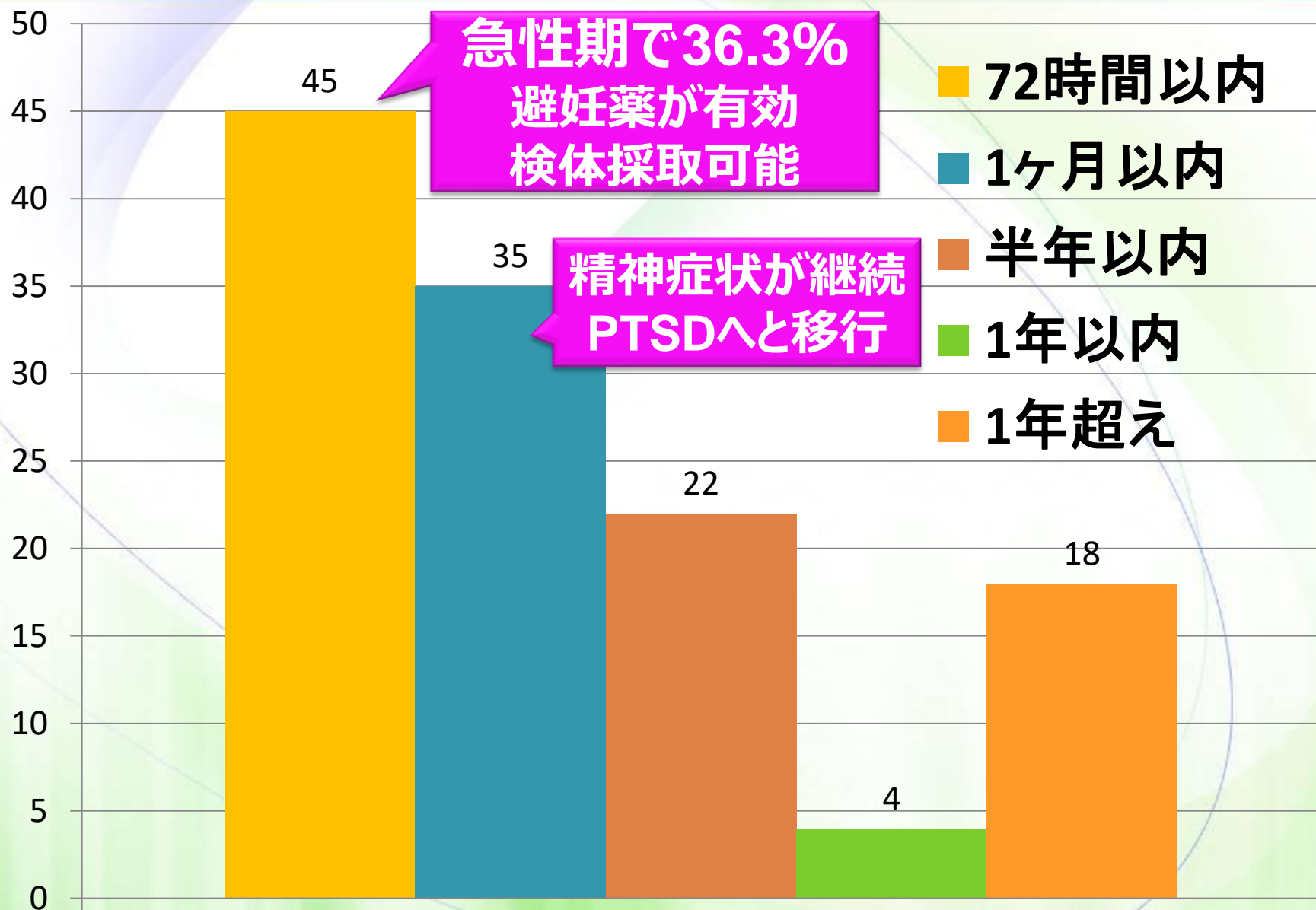
11 見知らぬ人

全体の8.9%

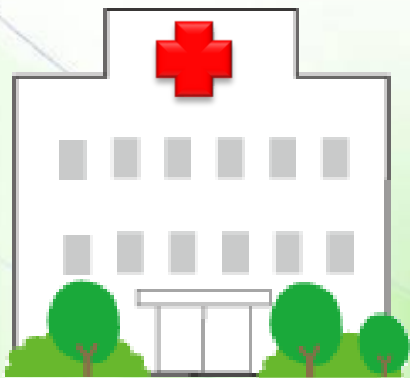
59 知人

SNS絡み21名

18歳未満新規来所者の発生からの経過時間124名



2016年1月5日～2019年12月31日
統計報告 -13～16歳-



名古屋第二赤十字病院
性暴力救援センター
日赤なごやなごみ

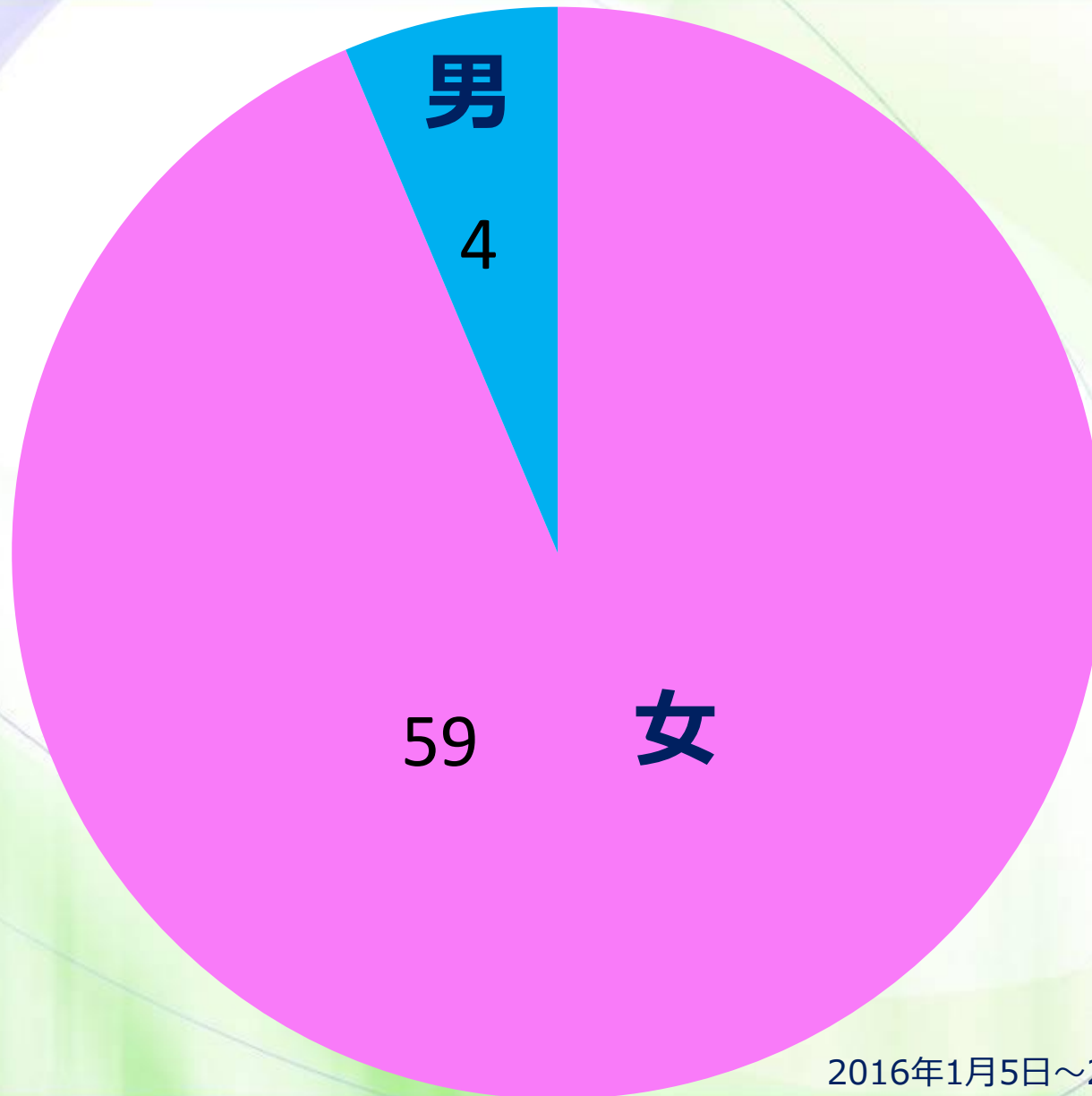
13～16歳新規来所者の年推移

63名



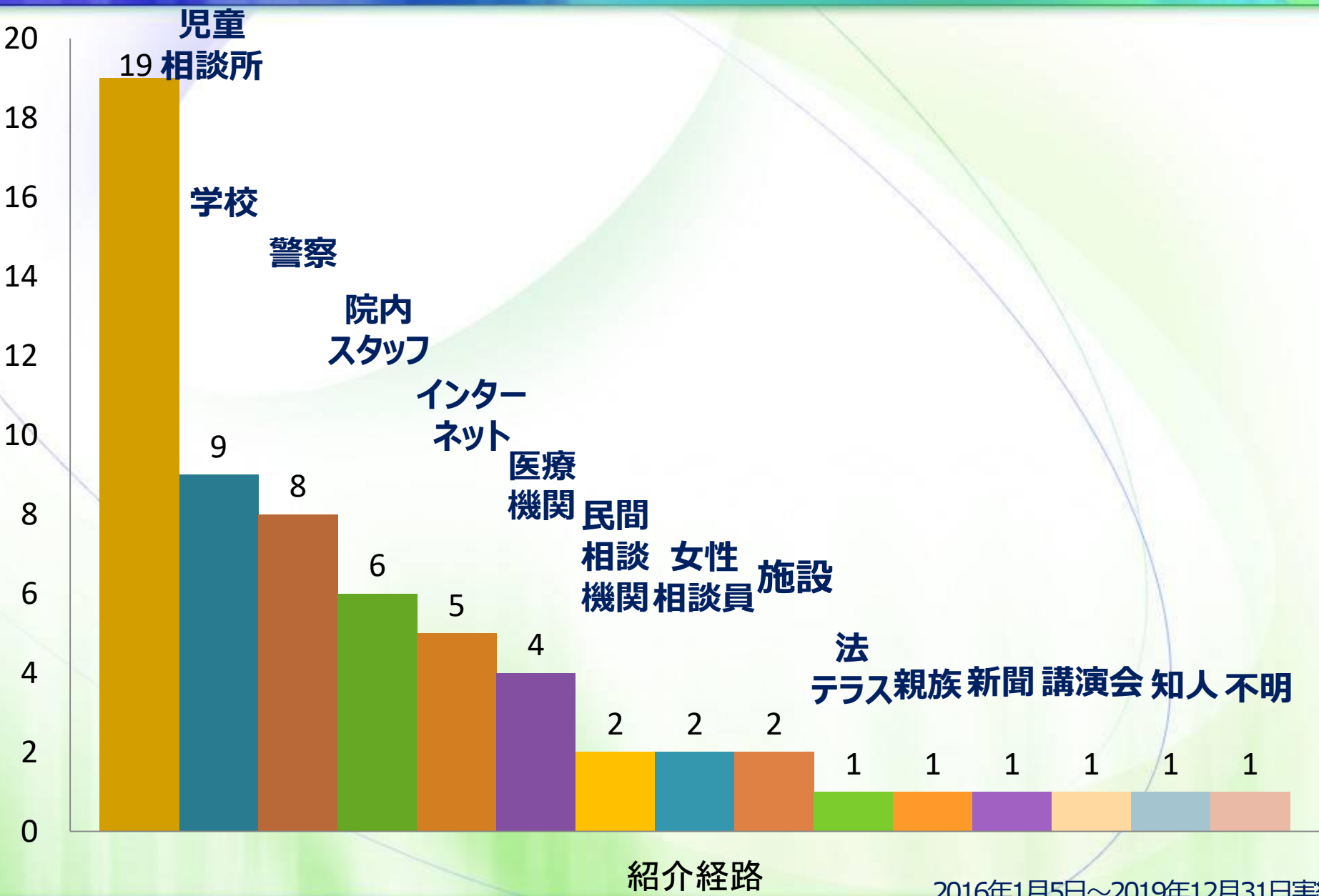
2016年1月5日～2019年12月31日実績

13～16歳 新規来所者の性別 63名

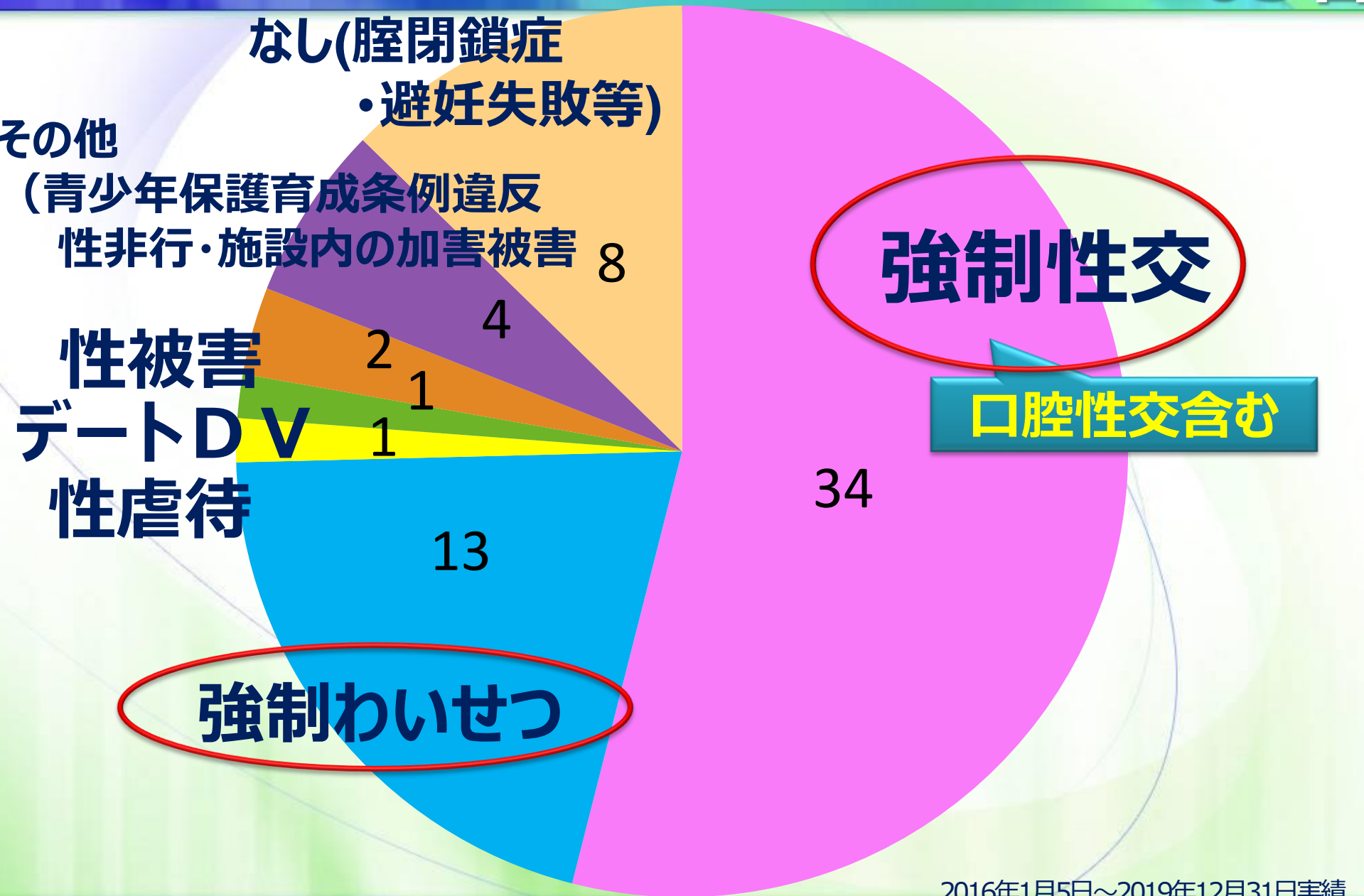


2016年1月5日～2019年12月31日実績

13～16歳新規来所者の紹介経路 63名



13～16歳 新規来所者の被害状況 63名

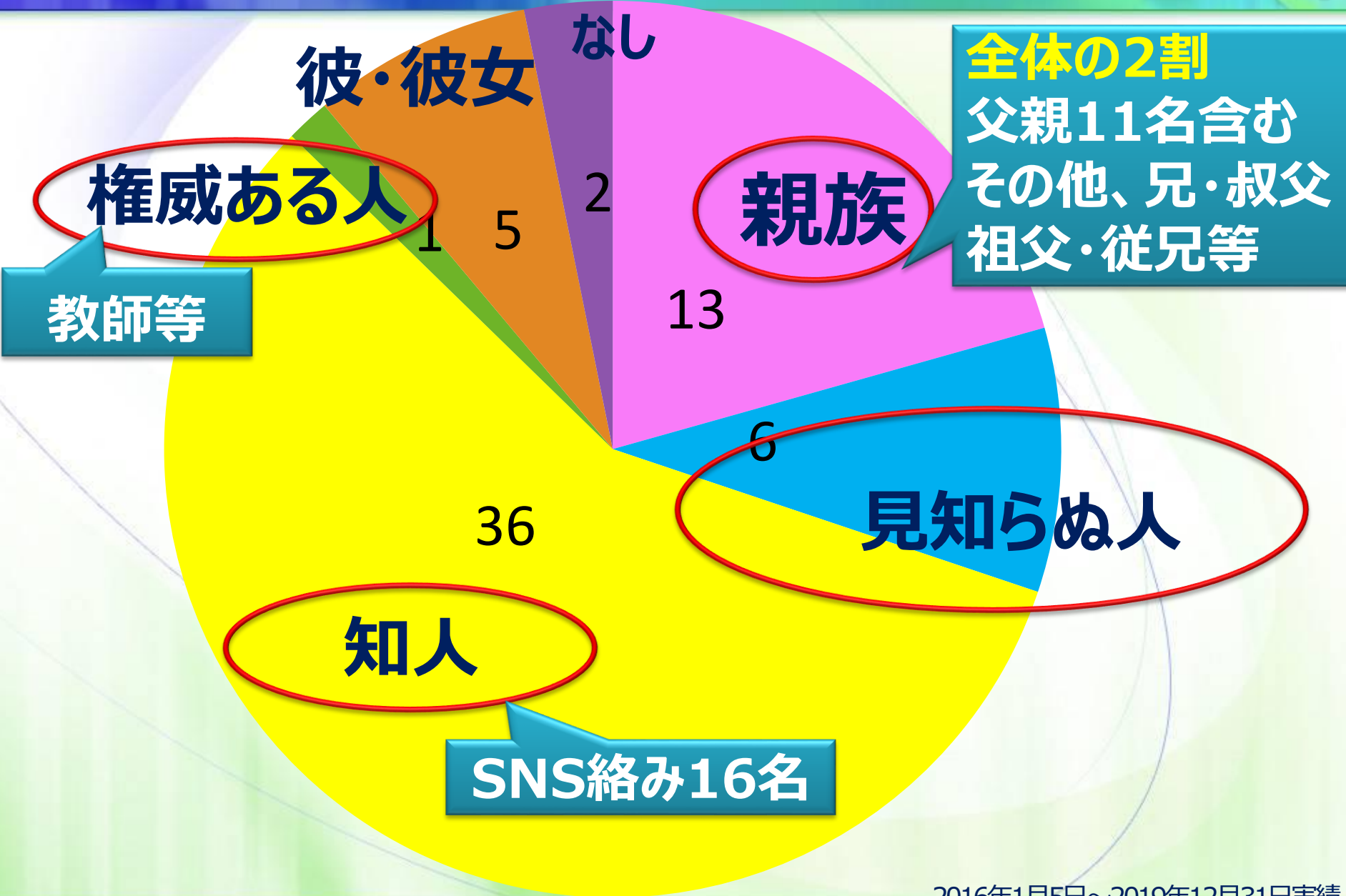


強制性交

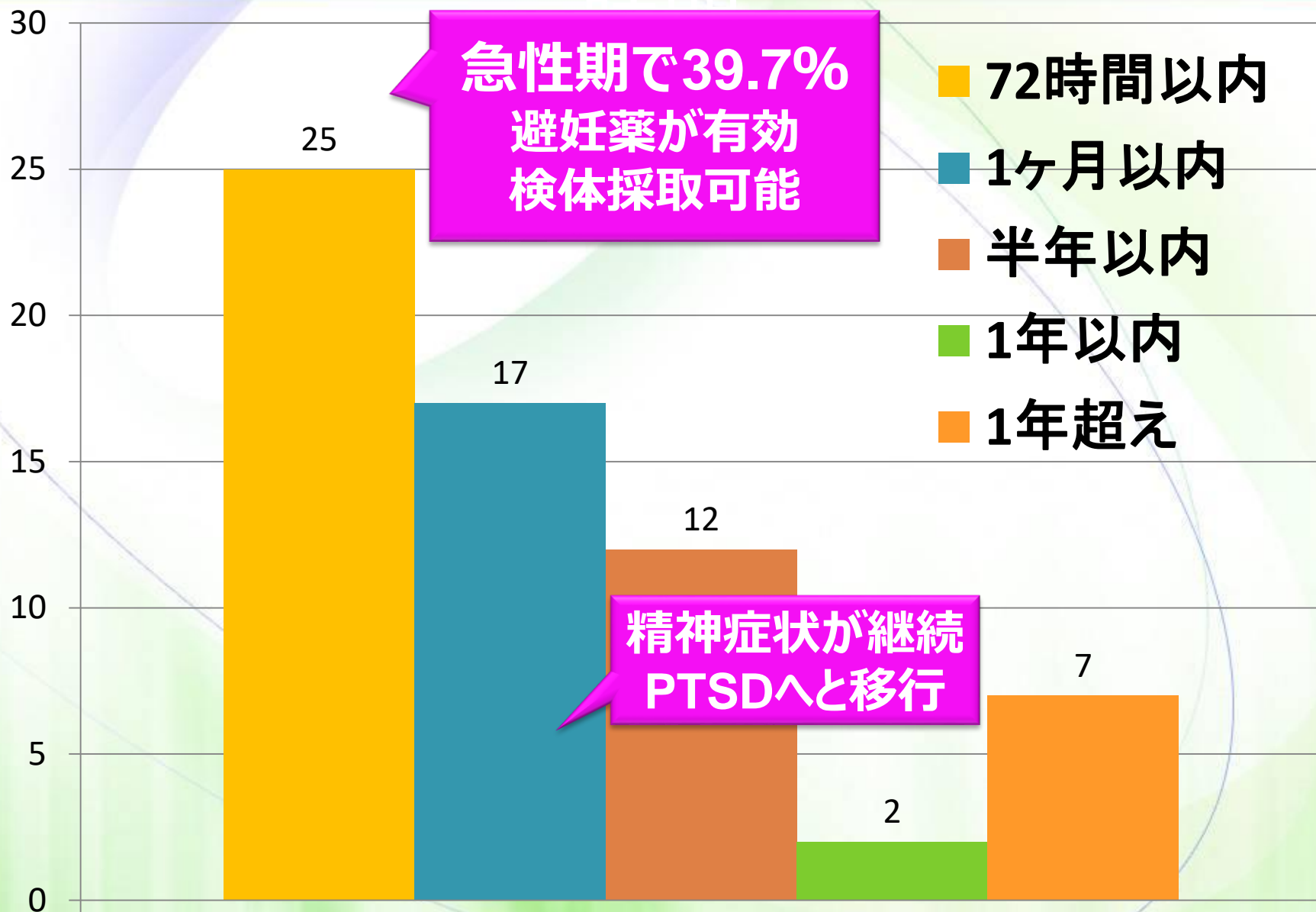
口腔性交含む

強制わいせつ

13～16歳 新規来所者の加害者の内訳 63名



13～16歳新規来所者の発生からの経過 63名



性暴力撲滅に向けた早期介入と

PTSD予防のための人材育成と社会システムづくり



社会課題

性暴力被害

見逃されている

【現状の課題】

1. 相談しない、場所も知らない
相談場所が不足
2. 知識を持つスタッフ不足
3. 関係組織間の情報共有・機動的連携不調
4. 制度普及不足 (Evidence-basedデータ無)
5. 経営者視線 (利益がない)

再被害

生活・
社会不応

悪循環

PTSD

社会の理解不足で二次被害
半数以上がPTSD発症

自殺、依存症、
再被害、失職・貧困、
非行、犯罪 etc.

PTSD複合リスク

課題解決のアプローチ

1. 病院拠点型ワンストップ支援センター増設・拡大に向けた取り組み

愛知県内救命救急センター看護師をSANE養成開始

2. 科学的エビデンスのあるトラウマ対応方法の普及

トラウマに対応できる人材の育成

3. 多機関多職種連携チームを支援する情報共有とシステムづくり

4. データの標準化・蓄積・分析

5. 社会へ向けた普及活動